
フローリン配合
スーパー ライオン
30円
50円
100円
歯磨はスーパー時代
フローリン（ふっ素）配合の新歯磨!!
●フローリン（ふっ素）は歯が酸にとかされないよう歯の表面をダイヤのように硬く美しくして、ムシ歯を防ぐ新しいムシ歯予防剤です
●色はさわやかなブルーです
●フレンチ・ハッカをたっぷりときかせたステキな味と香りです　あとのお食事がおいしくなる爽快さです
歯みがきは　おやすみ前に　もう一度！
スーパー ライオン

巻頭言

高遠なる理想の礎石たれ

日本ハンドボール協会
会長 式場隆三郎



昭和十二年、日本にハンドボール協会が出来てスポーツとしてのハンドボールが我国に芽生えてから二十二年経った。しかし「ハンドボール」と云う競技を知らない人はまだまだ多いし、「ハンドボール」と云う競技の名前さえ知らない人もいる。二十二年の時日を刻みながら一般に対する普及は、最近になってようやく軌道に乗り始めたとは云え認識の低さ、少さは他のスポーツ競技に較べるべくもない。プレイヤーの増加も必要だが、ハンドボールを見、ハンドボールを楽しむファンの増加を心がけなければいけない時機が来ていると思う。そうした時に雑誌「ハンドボール」が生れることは誠にタイムリーであり、この雑誌を通じてハンドボールのよさを大いに普及して貰いたい。

数年前、私は渡欧した際にハンドボールの世界選手権を見たが、日本における野球と同じように大衆の関心が大きく、バスを連ねて観戦に来るファンの行列は壮観だった。

日本では競技層の充実は一応の段階に達したと云う見方もあるが、私は、現在、中学から始めているハンドボールの紹介と指導を小学校の高学年からにすることも可能だと思うし、また、是非とも育成しなければならないと思っているのが実業団ハンドボールである。この二つが実現すれば今とは比べものにならない厚い競技層と選手層を布くことになるし、女子のスポーツとしても適していると云うことを普及させ、十六ミリの紹介フイルムなどを作って積極的な大衆化も計ろうと考えている。しかし手っとりばやく全国の人にハンドボールを判ってもらうには何よりも国際試合を行うことが一番だ。今月中旬来日するルーマニアチームは、去る三十一年の西ドイツに次ぐ、戦後二回目の国際試合だが、西ドイツの時にも我国のハンドボール界に多大な足跡と刺激を与えてくれたがそれ以上のものを期待している。特に今回は一九六〇年のオリンピック東京大会の正式種目に採り上げられて日本のハンドボールが内外から注目をあびている時だけに種々な意味で重大だ。また、外国チームを招へいするばかりではなく、日本チームが海外に出る機会も多いに作りたいし、韓国、中共あたりしかやっていないアジアのハンドボール界もこれらの国と協力してフイリピンなど各国に呼びかけて充実させたい希望も抱いている。この間、沖縄に行った時、沖縄でもハンドボールをやりたいと云う機運が高まっていることを知り大変結構なことだと思った。ともあれ、国際試合を年中行事の一つとして定期的に開けるよう、国際間の折しようもこれから大いに推進しようと考えている。

最後に、日本のハンドボール界と、日本のハンドボールプレィヤーに望みたいのは、妙な劣等感を失くすべきだと云うことである。日本のハンドボール界には新興スポーツだと云うことと、あまり人口にかいしゃされていないと云うことで、プレィヤー自身がハンドボールをしていると云うことに遠慮勝ちだったのだがこのような考えは根底から取去らねばいけない。

技術的にも日本チームのレベルは充分世界の桧舞台に立ってやっていけるものだし、特に近年の技術の向上は驚異的ですらある。日本のハンド・ボール界も創立二十二年にしてようやく草成期を脱した。しかし私の理想とする日本のハンドボール界はまだまだ遠く高い所にある。その一つの礎石にこの雑誌「ハンドボール」がなってくれれば有難い。

待望のルーマニア・チーム来日

対全早大戦を皮切りに 全国各地で十試合

対ルーマニア国際試合全日程

日付	試合
6月10日（金）	羽田着
6月12日（日）	対全早稲田大学（東京小石川球技場）
6月14日（火）	対全北海道（函館市千代ケ岱野球場）
6月16日（木）	対全仙台（宮城県総合競技場）
6月18日（土）	対全中央大学（東京小石川球技場）
6月19日（日）	対全日本体育大（東京小石川球技場）
6月22日（水）	対全群馬（桐生市営野球場）
6月25日（土）	対全愛知（瑞穂競技場）
6月26日（日）	対全関西学院大学（西宮球技場）
7月2日（土）	対全神奈川（三ツ沢競技場）
7月3日（日）	対全芝浦工業大学（東京小石川球技場）
7月5日（火）	離日

★各試合とも試合開始時間未定

☆一行は国際審判員を含む20名（予定）

主催・日本ハンドボール協会

国際試合を前にして

高島理事長と一問一答

――待望のルーマニア来日で御多忙でしょう。今度の来日交渉その他はスムースに決まったのですか。

『当初、フランス選手権チーム〝ステラー軍〟を呼ぶつもりでいたのが不可能となり正式にルーマニア招へいの活動を始めたのは昨年の暮から年頭にかけてで、しかも、ルーマニアからの承諾の報が延着したりして随分ヤキモキしましたが、どうにか本決りとなり実の所ホッとしているところです。』

――今度の来日チームの実力と一行の顔ぶれは？

『去年の六月オーストリアのウィーンで開かれた世界選手権の決勝トーナメントで優勝戦まで勝残り、東ドイツ、西ドイツ合体の現在世界最強と思はれる全ドイツと対戦し、前半6―6、後半5―8と云う大接戦をやって惜しくも二位となったと云う戦績を見てもその実力は高く評価しなければならないと思います。おそらく、先年来日した西ドイツオールスターズに優るとも劣らない好チームだと期待してよいと思います。一行のメンバーは役員、選手併せて二十名と云うことだけ決まっており、その中に役員として国際公認審判員一名を加えて欲しいと云う日本側の要望を伝えてあります』

――今、お話のあった去年の世界選手権にはどの位のチーム（国）が参加したのですか。

『決勝トーナメントには八ケ国が出場していますが、その前に予選をやっており、はっきりは判りませんが大体十五〜二十ケ国が参加していたのではないかと想っています。この大会には日本も参加する心算で準備を進めていながら、諸々の事情で取止めになってしまったのですが……』

――今度の日程を見ると「全日本選抜軍」がありませんネ。

『協会の考え方としては、今は個々のチームの強化に全力を注ぐべき段階であり、またなるべく多くの選手に国際試合の経験をつませたいと云う考えの基から、今回は「全日本」の編成をあえて止めました。それに色々なチーム、特に大学の単独チームの対戦には観客層も広範になると云う利点もありよい結果を生むのではないかと思います』

――西日本勢では全関学が対戦するだけで他のチームは予定されていませんが……

『西日本地区に日程を組んでいない特別の理由はありません。ただ、先年、西ドイツが来日した時は北陸、山口、九州などを廻っており、その時、国際試合が出来なかった東北、北海道を今回は優先したいのです。私としても全国各地でやりたいのですが、日程などの関係でそうも行けません。しかし、これで二回の国際試合によって、重点的ながら、全国の主要都市ではその経験を積んだことになりますしこうしたことによって各地方のハンドボール界の振興が成し遂げられると考えます。』

――日本の国際的な水準はどの程度です？

『この間、西ドイツが来た時にファイク団長が日本は大体フランスと同程度、つまり世界的にはBクラスの上あたりであると云っていましたが、私は、その後、今日までに見せた日本ハンドボール界のレベルの向上は驚異的なものがあったと自負しておりますし、少くとも、Bクラスの上あたりと云う言葉の「あたり」と云う言葉は不用になったと思います。あるいはAクラスの下ぐらいではないかとさえ思っている位です』

――そうなると、今度の国際試合の日本側の善戦は大いに期待出来ますネ

『その期待は充分です。先程も申しました通り今回は「全日本」がありません。その

ため特にコンビネーションとかチームワークと云った点に時間をかける余分がはぶけ、充分に対ルーマニア戦への秘策をねれるのですから、よい結果を期待してよいと思います。特に昨年国内では無敵を誇った芝浦工大、関西のナンバーワン名門全関学の二チームは勝利も望めるのではないかと思いますし、全早大、全中大、全日体大等と云った大学チームも優秀な若手OBを加えて強力なメンバーを編成しておりますので面白いと思います』

――地方チームはどうでしょう

『西ドイツの時は全日本軍よりもむしろ全東海、全富山と云った地方選抜軍の方が善戦した例もあり、決して大学チームに劣ると云うことはないでしょう』

――ルーマニアチームに技術的に特に学ぶ点は？ 特に35メートルラインが新設されてからは初の国際試合なんですが

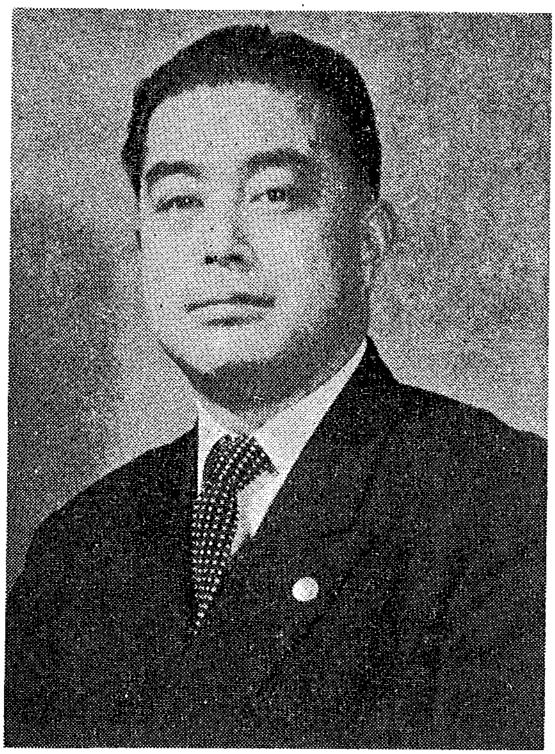
『想像ながら断言出来ることはルーマニアが六人攻撃、六人守備を常用すると云うことと35メートルラインを利用したプレイーが使はれると云うことでしょう。はっきり云って日本のハンドボール界はこの35メートルラインを完全に消化しているとは云えません。その点大いに注目すべきプレーがあるでしょう。それにドリブルを使はずパスワークを多用して確実にノーマークになってからシュートを射っと云う先年ドイツが見せた攻法と同じプレーが行はれると思います』

――先年の西ドイツはハンドボールのABCに忠実な正攻法でしたがルーマニアはどうですか

『これも想像ですが、おそらくドイツに増したオーソドックスな戦法でしょう。それでなければ世界選手権でドイツと接戦をすることなんか出来ません』

――日本チームが勝つにはどんな点を注意したらよいですか

『やはり体格的、体力的に相手は数段優れていましょうから、それに倍するスタミナを養うことが第一です。それに身長が違いますから高い位置でのパスワークに対する方策を考えねばなりません。』



高島冽（写真）理事長はハンドボール草創期に日体大FWとして活躍され，昭和27年日本協会理事長に就任，JOC委員，大正11年生れ

――逆に日本チームの有利な点は

『残念ながら試合の決め手にまでつながる有利な点はないと云えましょう。しかし35メートルラインの設定でデイフエンスから云えば最大限六人のFWを相手にすれば良いし、オフエンスの面から云っても同じことが云え、その点ではスタミナの配分さえ考えれば、旧ルールの時だった西ドイツの場合と違い、数とスピードに圧倒され、たやすくゆさぶられることは少いでしょう。』

――審判上の問題は？ ルール解釈の相違なんかはありませんか

『おそらくないでしょう。もち論、大会前に同行した相手の国際審判員と打合せ会を開きますが。それから全国各地（予定では函館、仙台、桐生、東京、名古屋、西宮の六会場）で国内の公認審判員を集めて審判研究と講習の会を開くつもりでいます。』

――技術の指導面で特に計画は

『今のところ、国際試合を行う各地で試合後に技術講習会を行うつもりでいます』

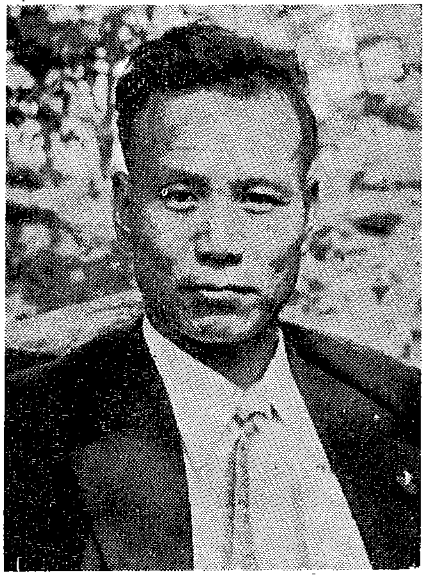
「表紙写真」第13回東京都民大会決勝戦大崎電気対芝浦クの試合、井上（大崎）のシュート寸前、後は芝浦の斎藤選手。

「ハンドボール」（季刊）

創刊号目次

東京オリンピックへの選手強化対策方針

荒川清美



昨年五月ドイツのミュウヘンで開催された第五十五回I・O・C会議で、一九六四年の第十八回オリンピック大会の会場地が東京と決定したので、日本のスポーツ界は心から喜んだのであります。

なかでもハンドボール競技にあっては……近代オリンピックは六十年の歴史を持っているのであるが、ハンドボール競技は、ただの一度一九三八年第十一回ベルリンオリンピック大会に正式種目として登場しているだけであり、戦後オリンピック大会も三回を経ているのであるが、出場する機会が与えられず、目の出る日を只管望んでいたのであります。はからずも一九六四年東京大会には正式種目として、その責の一旦を任う資格を与えられたので、愛好者の永い間の念願と要望が実を結んだのであるから、この喜びは一入であり、反面ことの重大さを痛感せざるを得ないのである。東京大会に正式種目として決定した今日は、ただ如何に立派に日本に応しい真の実質的な競技を実施するかが問題である。

スポーツの世界においては、相手を遇する最大の条件は、対等の力を持ち最後まで良い試合をすることである。

能力乏しくして相手を迎えることは非常識にすらあたいするものである。

如何に立派な施設を整備し建造しても、肝心の競技に最大の努力が尽くされなかったら、社会の関心はうすらぎ失望することは言を待つまでもないことである。

かかるためにわれわれは、すぐれた立派な選手をつくらなくてはならないのである。

世間ではハンドボールは正式種目に数えられているが果たして「勝てるだろうか」などと期待や希望を語っていることを、よくきくのであるが、この純粋な社会感情に、こたえるべく、すぐれた良い選手をつくることは最大にして最高の急務であり、責任でもあるわけである。われわれが育成したいと願っている選手は、日本を代表するにたる、純粋なアマチュアの選手で精神的にも肉体的にも備えがあって大会の桧舞台に立っても、堂々と戦える選手なのである。

このような選手を育成すべく発足したのが日本体育協会の「東京オリンピック選手強化対策本部」である。

又対策本部に関連して「スポーツ科学研究委員会をつくって科学的研究をしたり、外国の強化策を調査研究したり、諸外国の科学研究文献や技術指導教材を集めたり、いずれもみな選手強化に役立たせ日本の競技力を世界的水準まで引き上げるべく設けられたのであります。

選手の強化を進めていく上には四年後オリンピック大会時の諸外国の力を想定しなくてはならない。

今日われわれが四年後の世界の競技力は極めて高い水準にあるものと考えなければならないのである。

きくところによるとソ連の軍隊のスポーツはハンドボールとバスケットボールとが採用され、全軍にハンドボール競技が実施されていることである。六億の人口を要する中共においては、秋に開催される、国内選手権大会の地方予選が、早くも四月から実施されている現況である。それに科学的研究の競争と進歩は選手のトレーニング法と技術を改善するので恐るべき世界中の選手を迎えて戦う覚悟をしなければならないのである。

一九五六年九月世界選手権を保持する西ドイツチームを迎え、全国各地を転戦し、日本ハンドボール界に大きないぶきと、そして今後の方向を明確にしてくれたことはこの機にあたり、感謝するものである。

いずれにしても日本の水準と世界の水準には相当なへだたりがあることはたしかである。だからと言って、いたずらに希望を失い悲感ばかりであってはいけない。

科学的研究を基調とした合理的トレーニングの方法と技術を生み出すことによって底い競技力を高い競技力えと引き上げられると信ずるからである。

競技力は科学的研究によってのみ培われるものでないことではあるが、又経験のみにたよっても解決されるものではない。

経験と科学が相伴って進むことがより以上の期待に応える近道である。

昨年第一回の中央指導者講習会を東京で開催したのもわれわれはそれを認め信ずるからである。

選手は常に指導者の頭脳と力価から生れてくるものである。

良い選手は良い指導者によって生れてくるのも当然である。

ためにハンドボール競技は良き指導者によって、選手の身体の適性によるトレーニングを増すことにより競技力は高められるのである。

ために指導者養成が最大の急務でなければならないゆえんである。

選手の強化は対象である選手の競技年令に制限されるので数年の中に勝負をつけなければならぬことであり、それに身体的にも精神的にも、はなはだしい動揺のしやすい時機でもあるので、この潜在力を養って最高の限度まで育成することは相当な困難を予想しなければならないのである。

これにもかかわらず人間づくりに精魂をうち込んでくれる指導者でなければならないことである。

しかし、如何に指導者がその気になっても決して効果が現われるものではない。

指導者によってトレーニングの研究がなされ、選手の心構えができ技術と戦術の改善がなされてこそその効果が見い出されるものである。

完全なトレーニング方式が有効適切に完了されて、始めて優秀なる成績が期待できるのである。

東京大会に備えての選手はそれぞれ発育過程にある青少年で、この青少年の発育にふさわしいトレーニングの量と質が研究され、適切なる指導のもとにつちかわれたものが桧舞台で充分なる活躍が期待されるのである。

東京大会に備えての選手の強化はひとりが合点してもその効果はなく、日本中の一人々々の指導者の力強い協力がなければ達せられないのであらん限りの御協力を御願いする次第であります。（筆者は日本ハンドボール協会理事、オリンピック東京大会選手強化対策委員会ハンドボール部門委員）

×　×　×

★東京五輪選手強化対策委員会とは……

（解説）荒川氏の文中にもある通りJOC（日本オリンピック委員会）が四年後のオリンピック東京大会に於いて日本代表選手が各競技各種目に優れた成果をあげて欲しいと云う国民一般の期待や要望に応えるために、ローマ大会（注・ハンドボールはローマ大会種目にないが）をもその期間に含めて、スポーツ科学の進歩や発達にともなうトレーニング法や技術、戦術などを計画的、組織的に研究して、特にコーチの素質を高め、コーチシステムを改善して選手の強化と育成に当ろうと云う意図の基に昨年暮に結成されたものである。またこの委員会は強化、育成の対象とする選手を体力、体質の秀れた戦後生れの青少年層に置いているのが注目され、すでに活溌な活動をしている。なお強化対策委員長は田畑政治氏、副委員長は大島鎌吉氏。前稿執筆者の荒川清美氏はハンドボール部門の選出専門強化委員である。なおハンドボール界では今春三月早くも神奈川県協会が神奈川県下の高校優秀選手を中心に藤沢市で西山逸成氏（日体大OB神奈川協会常任理事）をチーフコーチとして〝優秀新人選手強化指導合宿〟を行った

海外ハンドボール通信

▼ヨーロッパ各国の優勝チームを集めた国際七人制ハンドボール（男子）選手権大会は二月末ブカレストで行はれ、予想通りドイツのフライシャウワ・ギョッピンゲンが優勝した。

準決勝以降の成績次の通り。

アーハス（デンマーク） 20（11—4, 9—6）10 UCパリ（仏）

FAギョッピンゲン（独） 10（5—4, 5—4）8 ダイナモ（ルーマニア）

▽決勝

FAギョッピンゲン（独） 18（10—5, 8—8）13 アーハス（デンマーク）

▼この大会で優勝したフライシャウワ・ギョッピンゲンは、今夏七月末ブエノスアイレスに遠征する。

▼フランスの強豪UCパリチームは今夏ブラジルハンドボール協会の招きでブラジル及南アメリカに遠征する。

▼今年の六月十二日から十九日まで行われる女子十一人世界選手権大会は六ケ国が参加し、A・Bプールに分け次のような日程で行われる。

六月十二日　ルーマニア対デンマーク、ドイツ対ポーランド、

六月十四日　オーストリア対デンマーク、オランダ対ポーランド

六月十六日ルーマニア対オーストリア（以上第一次戦）

六月十七日　第二次戦としてAプール（ルーマニア、デンマーク、オーストリア、デンマーク）Bプール（ドイツ・オランダ・ポーランド）の上位2チームがAプール一位対Bプール二位Bプール一位対Aプール二位の日程で対戦。

六月十八日　A・Bプール三位同志が対戦。

六月十九日　3位決定戦及優勝戦

▼明年三月一日から十二日間に亘って行われる予定の第四回世界七人制ハンドボール男子選手権大会（開催地未定）は約十二ケ国が参加する予定である。大会は参加国をABCDプールに分け第一次戦を行い、各プールの二位までの八ケ国を更にABプールに分けて第二次戦を行い順位決定はAB一位同士による優勝戦、同二位同士の三位決定戦、同三位同士による五、六位決定戦、同四位同士による七、八位決定戦と云った試合方式が採られる

東京オリンピック組織委員会委員名

▽会長　津島寿一▽副会長　安井誠一郎、竹田恒徳▽事務総長田畑政治▽委員　足立正、浅沼稲次郎、東竜太郎、福田篤泰、福永健司、本田親男、石坂泰三加藤好雄、北田一郎、松田竹千代、松永東、中村梅吉、野村秀雄、大久保留次郎、重森寿治、鈴木俊一、高石真五郎、内田道治、内山岩太郎、柳田秀一、安井賢、菊地民一▽幹事　堀武芳太田哲三、桜田武

第6回全日本総合室内選手権観戦総記

（昭和35年1月26日～31日、東京台東体育館）

戦評・
共同通信社運動部　鶯尾武治
デイリースポーツ東京本社　小川励行
NHK運動部　杉山茂

芝工大が三年ぶり優勝　男子

▽男子一回戦

明星ク（東京）　不戦勝　神戸ク（兵庫）

早大（東京）34（13－4, 21－1）5 法政二高ク（奈神川）

実力に格段の差があり試合にならなかった。早大は六十本近いシュートの半分以上を得点に結びつけ前半の10分で試合を決めた。

陸上自衛隊（神奈川）24（12－7, 12－1）8 都立五商（東京）

自衛隊は前半よく走って大量リードを奪い体力にモノを云はせての順当勝ちだったが、後半は凡失が多くほめられた出来ではなかった。

滴水会（東京）16（10－0, 6－2）2 函館工OB（北海道）

函館の健斗が期待されたが得点力に欠け、その攻撃も単調なために若い滴水会の一方的なペースで試合は進められた。函館は速攻なら速攻、遅攻なら遅攻に徹すべきで、中途半端な攻法がわざわいしたと云えよう。

鎌倉学園高（神奈川）14（5－8, 9－5）13 旭桜ク（東京）

前半は鎌倉の若さに旭桜が押され気味で完全に鎌倉のペースだったが、後半は流石にベテラン揃いの旭桜が巧い試合運びでもり返し接戦となった。しかし前半のリードで優位に立つ鎌倉はGK青木の堅守もあって一点差ながら堂々の勝を得た。後半、主審の笛にやや疑問が残された。

福島ク（福島）20（11－5, 9－2）7 墨田川高（東京）

大学生を主力の福島に対して墨田川は力一杯の挑戦だったが実力差通りのスコアだった。

全教大（東京）15（9－4, 6－4）8 全宮城（宮城）

全宮城の善戦が期待されたが、試合の展開力で全教大に一歩をゆずり、後半は疲れも見えて空しかった。

桐生ク（群馬）18（2－1, 2－2, 7－6, 7－8）17 府中ク（東京）

桐生の小林、府中の本橋と互いにエースが好調で華々しいばかりのシュート合戦を演じたが、桐生のチーム力が延長後に発揮されて辛勝するところとなったが府中の粘りは破れて悔いのないものだった。

▽男子二回戦

全芝浦工大（東京）29（16－2, 13－1）3 明星ク（東京）

優勝候補の全芝工大、圧倒の貫録勝ち。

早大 22（8－8, 14－5）13 日体大（東京）

互角の滑り出しであったが、長身選手を揃えた早大は次第にその特長を発揮して強力な突進力を見せて前半で大差がついた。後半日体も奮起したが大勢をくつがえすには至らなかった。

陸上自衛隊 25（12－13, 13－7）20 学芸大（東京）

自衛隊は先制攻撃が成功して昨日に続く逃込み勝ちだったが後半鋭さが目に見えておちるのは一考されてよい。

滴水会 10（6－3, 4－1）4 東京教育大（東京）

滴水会は調子にムラがあり鮮かな速攻を決めるかと思うと凡攻を見せると云った不安定な試合ぶりだったが体力的に教大を上廻ったのが勝因。

福島ク 17（10－7, 7－6）13 五商ク（東京）

福島は攻撃に変化がなくあまりにも一本調子だったために捨身の五商クに食下られ実力以下の試合ぶりで苦戦した。

芝浦ク（東京）15（8－2, 7－2）4 全教大

黒馬同士の対戦だったが期待はずれの凡戦。全教大は主力選手に鋭さがなく、芝浦のスピーディな試合運びに圧倒され続けよい所が全くなかった。

全日体大（東京）26（11－6, 15－5）11 桐生ク

桐生としてはむしろ善戦で全日体大は優勝への意欲が充分読みとられ終始慎重な攻防を示した。

〃七人制〃を消化している点では全出場チーム随一の名に恥じず、定評通りの試合ぶりだった。

鎌倉学園高 26（15－3, 11－2）5 明星学苑（東京）

東京、神奈川を代表する有力高校の対戦だったが自信にあふれた鎌倉がスピードのある攻撃で制勝した。

（以上　杉山）

▽男子三回戦

全芝工大 14（6－6, 8－5）11 早大

	【早大】	【芝工】
GK	鈴木	鷹見
B	穴戸	村上
	北沢	田口
	森岡	高井
FW	吉田哲	佐藤
	恵谷	服部
	吉田正	山田
交代	長沢	宮原藤
	塩坂	宮原俊
	大館	塩川
	久保	福本
ST	40	40
反則	31	38

早大の斗志はすさまじいばかりでこの日までに二試合で56点をあげた長身のFWトリオが鋭く芝浦守備陣に突進し熱戦となった。早大にとって惜しまれるのは前半17分5－3と2点差に迫り、尚調子にのって反撃に転じようとした際CF恵谷が負傷して後半20分近くまで欠場を余儀なくされたことでこのためFWコンビネーション攻撃も狂い勝ちとなり、一気にタイスコアにするチャンスを逸したことだ。それと開始8分で殆んど無策のまま4－0とリードされた立上りの拙さにあり、スローオフと共にすでに気力充分な全芝浦の精

神力に一歩をゆずったのが勝敗を色分ける結果になったわけだ。しかし早大の長沢、吉田正、恵谷の豪快な攻撃は魅力のあるもので、この日で姿を消したのはさびしい（小川）

滴水会 19（8－5 11－4）9 陸上自衛隊

	【滴水】	【陸上】
GK	谷	宮下
B	久保	越村
	斎藤	佐藤
	中	佐々木
FW	野村	本田
	大橋	片淵
	内藺	西山
交代	越智	古屋
	長谷川	丸尾
	中村	鶴田
	古賀	小林
ST	33	32
反則	53	37

鎌倉学園高 15（6－1 9－4）5 福島ク

	【鎌倉】	【福島】
GK	青木	朽木
B	佐藤	寺山
	宮本	鈴木
	神田	草薙
FW	小野	伊佐治
	中根	野村
	青木	河東
交代	鈴木	加藤
	杉山	
	押田	
	庵原	
ST	37	38
反則	64	32

滴水会×陸上自衛隊は互いに恵まれた体力をぶっつけ合う試合となったが、両軍併せて90の反則数が示す通り、たえず主審の口からホイッスルが聞こえる有様でスピード感に欠けた。勝負は後半にスタミナの余祐を残した滴水会が押し切った。鎌倉学園×福島クは前半着実にチャンスをものにした鎌倉に対し、福島は疲労が見えてミスプレーが多く自滅した形だった。鎌倉はこの日も小野、中根、青木のFWトリオにHB陣の健斗で勝進んだ（鶯尾）

全日体大 16（6－5 10－6）11 芝浦ク

芝浦クラブは近藤、北村らの好プレーで前半は白熱した好ゲームとなり、全日体大をたじたじとさせたが、後半開始直後、全日体大

	【日体】	【芝ク】
GK	北川	今野
B	松田	大石
	東	高森
	竹野	勝倉
FW	山下	江藤
	清川	池田
	井上	間
交代	久保田	北村
	栗山	金山
	小林	武井
	福田	中村
ST	45	35
反則	30	50

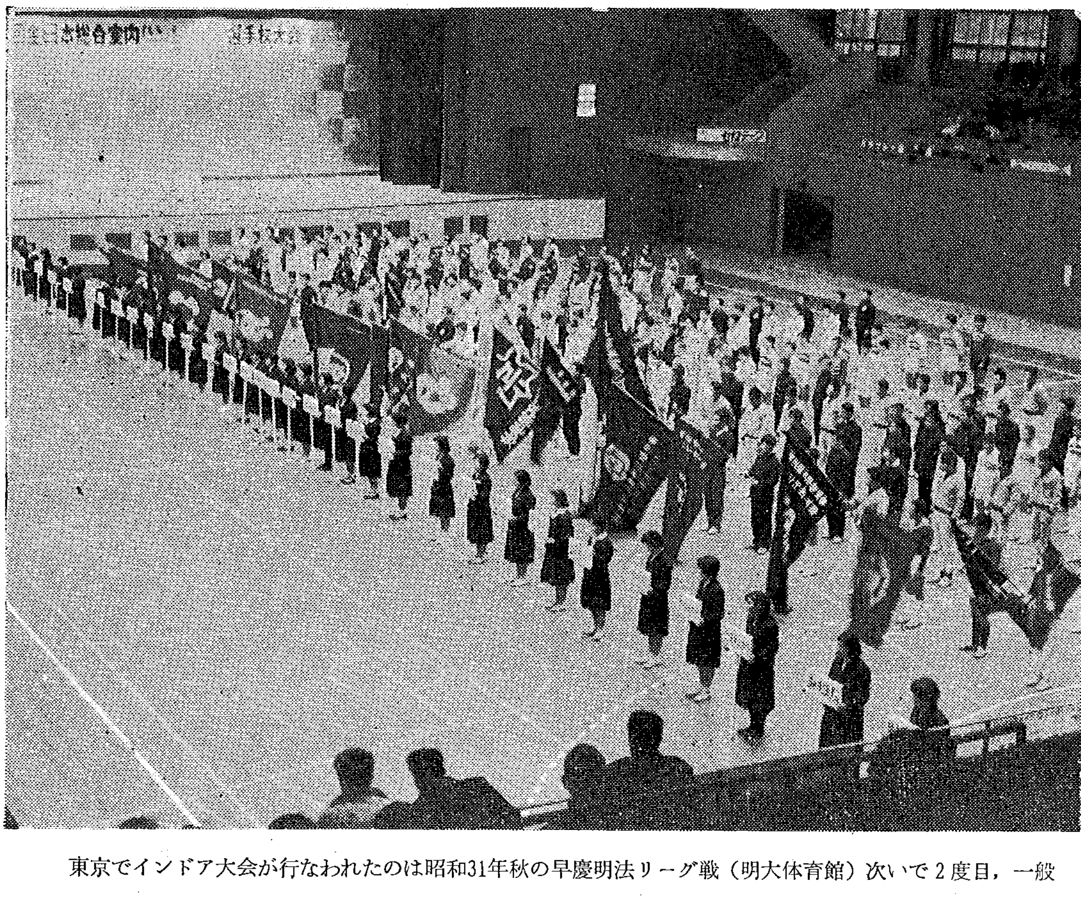
の山下、竹野にクリーンシュートを決められて8－5と放されたのがこたえ善戦空しく破れた。全日体大は、試合かけ引きの上手さで芝浦のディフェンスをつき、山下清川、井上のFWが前哨気味に相手守備陣をかく乱し、遅れて攻撃に加る竹野にボールを集める策戦が、成功してそのほとんどを得点に結びつけた。（小川）

▽男子準決勝

全芝浦工大 23（10－7 13－8）15 滴水会

	【芝浦】	【滴水】
GK	鷹見	谷
B	村上	久保
	田口	斎藤
	高井	中
FW	佐藤	野村
	服部	大橋
	山田	内藺
交代	宮原藤	越智
	宮原俊	長谷川
	塩川	中村
	福本	古賀
ST	59	41
反則	56	37

試合は芝浦同士、しかも一、二軍戦の感があって勝負は最初から問題外だったが、滴水会は前半25分まで、よくレギュラーの全芝浦工大に食い下り、特に9分、10分



東京でインドア大会が行なわれたのは昭和31年秋の早慶明法リーグ戦（明大体育館）次いで２度目，一般公開の大会は本大会が初めてであっただけに注目された。試験期を控へて東西学生界の諸チームがあまり姿をみせず西日本勢の参加が少なかったのは惜しまれたが男子24　女子16チームが参加して好ゲームをくりひろげた。写真は26日の開会式に勢揃いした出場全チーム。

12分と立て続けに速攻を決めて4―2とリードしたあたりは鮮かなものがあり互角の試合ぶりだった。しかし全芝浦工大はハーフタイム直前から持前の快足攻撃が調子にのり始め、矢次早に得点をあげてペースを奪い返し後半は余裕のある攻防で順当勝した（小川）

全日体大26（14―5 12―12）17鎌倉学園高

【日体】川田　野下川上田山林田
北松　東　竹山清井久保栗小福
GK　B　FW　交代
【鎌倉】木藤本田野根木木山田原
青佐宮神小中青鈴杉押庵

日体		鎌倉
48	ST	79
26	反則	22

後半全日体大が実力を発揮して結果的には9点差がついたが、後半6分までは1点を争う好ゲームを示した。全日体大は竹野を中心にゴールを狙えば、鎌倉学園も馬力にものを云はせて食い下り、後半の5、6分には鈴木、小野がバックシュート、右サイドからのジャンプシュートをそれぞれ決めて15―13と全日体大をリードする場面もあったが、若い鎌倉学園は調子にのって中盤で日体大とせりあったのが悪く、結局終盤戦は試合かけ引きの上手さと日体大の脚力に走り負けするものとなった。（小川）

▽男子三位決定戦

鎌倉学園高12（7―3 5―8）11滴水会

【鎌倉】木藤本田野根木木山田原
GK　青佐宮神小中青鈴杉押庵
B　FW　交代
【滴水】谷　保藤　村橋薗智川村賀
久斎中　野大内越長谷中古

鎌倉		滴水
59	ST	55
30	反則	33

前日の大激戦の疲れも見せず鎌倉は芝浦の一、二年生を中心にした滴水会に真っ正面から勝負を挑み堂々の勝利を遂げた。特に前半に見せた快足を利した速攻は圧巻で、高校ばなれした試合展開力と共に洗練されたチーム力を充分に印象づけた。（杉山）

芝工大、驚異の逆転

▽男子決勝戦

全芝浦工大14（7―7 7―5）13全日体大

【芝浦】見上口井藤部田藤俊川本
GK　鷹村田高佐服山宮原宮原塩福
B　FW　交代
【日体】川田　野上川下田山林田
北松　東　竹井清山久保栗小福

芝浦		日体
55	ST	68
21	反則	29

後半10分13―7と全日体大が6点差をつけた時は全芝浦工大の優勝はほとんど不可能と思はれた。しかし全芝浦工大は気落ちせず、大会史を飾る驚異の逆転劇を演じた。前半立上り3―0とあっさり先行した芝浦は、またしても日体の機先を制して簡単に勝を握るかに見えたが、日体も竹野、東のベテランが活躍して徐々に失点をはね返し、ハーフタイム前には井上のミドルシュートで8―7と逆転に成功。その好調を後半にも持込んで、鋭い出足で芝浦のパスをカットしては逆襲し10分に13―7と誰が見ても絶対の優位に立った。

だが、芝浦のベンチはここで巧技の山田をあえて退陣させロングシューターの宮原俊、佐藤を交互に起用、突っ込みを早くする作戦に出た。これを転機にこの二人と服部を加えたFWトリオが速攻で日体の固いディフェンスを破り26分には遂に13―13と追いついた。その後も速攻で相手ゴールを襲いつづけ28分劇的な宮原俊の決勝シュートが左サイドから鮮か　決ってリードを奪い返し三年ぶりの優勝を遂げると共に全日本総合、全日本学生、全日本学生王座に次ぐ四つ目の全国タイトルを獲得し完全全国制覇と云う前人未踏の偉業を成就した。（鴛尾）

―男子年次優勝チーム―

回	優勝チーム
第1回	日本体育大学
第2回	日本体育大学
第3回	全芝浦工大
第4回	日本体育大学
第5回	全日本体育大

×

今大会	
一位	全芝浦工大
二位	全日本体育大
三位	鎌倉学園高
四位	東京滴水会



（写真は決勝戦、試合開始前両軍主将のトス、全日体大（左）清川　全芝工大　宮原、主審岡村）

女子は熊本クが制覇

愛知紡に往年の鋭さなし

▽女子一回戦

愛知紡績（愛知） 9（3－4 3－2 2－0 1－0）6 太田二高（茨城）

延長前まではむしろ太田に分があった。愛知紡は昨年の水渦後全国的な大会には初出場であり、練習不足が云はれていたが果して往年の鋭さは殆ど見られず、試合運びの上手さで先行されながらも太田に追いついて勝負を延長戦にもちこんだ。こうなるとキャリアの差がはっきり表はれ太田に焦りが感じられたのに反し、愛知はゆっくりボールを廻してはチャンスをうかがい相手ディフエンスをゆさぶる老かいな試合ぶりで勝利をものにした。太田としては後半それまで健斗していたFWが疲れて2点に留ったのが痛くもう少し慎重に攻めて追加点さえあげていれば勝てた試合だった。（杉山）

日体大（東京） 10（6－3 4－6）9 清水商高（静岡）

後半清水の見せた気力は天晴れで、日体大も浮足立っていたが前半のリードでことなきを得た。日体が前半多用した速攻を後半示さなかったのは疑問で苦戦の因もそこにあった

桜水商（東京） 不戦勝 有磯高（富山）

大谷ク（大阪） 14（5－1 9－3）4 若松一高（福島）

大谷の徹底した遅攻に若松はペースを乱され反撃の糸口をもつかめぬままズルズルと押し切られてしまった。

水海道二高（茨城） 16（8－0 8－1）1 日女体短ク（東京）

水海道の速攻はなかなか堂にいったもので、日女体短大は振り廻され通し。大学チームにしては不甲斐ない戦いぶりだった、

熊本ク（熊本） 10（2－1 8－0）1 静岡城北ク（静岡）

熊本は前半調子が出なかったがシュートミスが多く苦しい戦いぶりだった。しかし後半に入るや俄然FWトリオの動きが滑らかになり鮮かなパスワークと正確なシュートで点差を開いていった。前半接戦して希望を持たした静岡も後半6本のシュートでは勝利を望むべくもなかった（小川）

清水女高（静岡） 11（5－2 6－3）5 四日市高（三重）

基礎技術の優劣がそのままスコアになったようなゲーム。

栃木女高（栃木） 12（4－1 8－0）1 全熊谷女高（埼玉）

前年二位の栃木女高の成長ぶりが注目されたがさすがにFW鶴見白井らの動きはよく巧みなカット・イン・プレーで順当勝した。

▽女子二回戦

愛知紡績 11（7－3 4－5）8 日体大

日体大は滑り出しは良かったがいささか竜頭蛇尾で愛知に立直るスキを与えたのが拙かった。愛知は前日に引続き会心の試合ぶりではなかったがFWは僅かながら調子を取戻したようで速攻、遅攻の使い分けなどはやはりマネの出来ない上手さを持っていた。（杉山）

【愛紡】【日体】
崎崎本川部木田野山田駒
野山滝瀬磯青沢黒桑太生
GK B FW 交代
村木田沢塚上田林橋多田
中鈴増寺犬川真小高本山

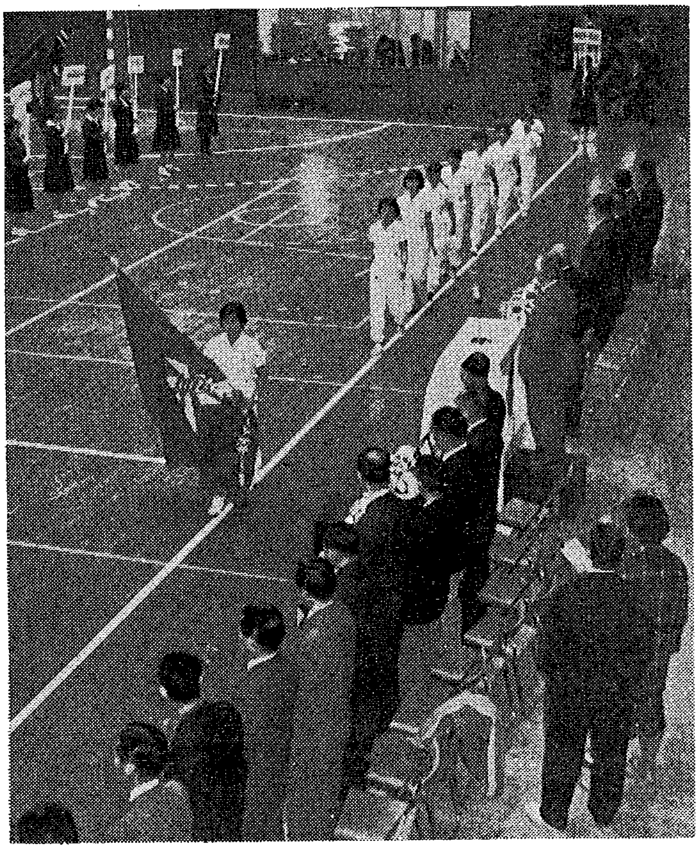
	愛紡	日体
ST	33	37
反則	19	15

桜水商 5（2－1 3－3）4 大谷ク

【大谷】【桜水】
山本本岡田 隅橋 山乾 田宗
青岡藤松古 奥 神小
GK B FW 交代
石田藤村田井沼井由林関
ツ
上片伊木永石蓮浅八村今

	大谷	桜水
ST	25	23
反則	26	31

内容的にはさしたる興味のあるプレーはなかったが東京の高校チームが準決勝に進出した点に意義があった。大谷は上手みはあったが決め手を欠いたために、忠実にボールを拾いまわる若い桜水に名をなさしめた。体格的に弱いと云



写真は大会開会式で高校の単独チームとして期待をかけられた清水商（静岡）チームの入場

はれる東京の女子高校界でこの桜水の健斗は大いに買はれてよいだろう。（杉山）

熊本ク　9（3－2／6－4）6　水海道二高ク

【熊本】		【水海】
早田	GK	古谷芳
蒲原	B	竜沢
内田	B	香山
井手	B	宮本
今池	FW	塚原
関	FW	染谷
村上	FW	古谷梅
栗崎	交代	坂野
島田	交代	小木
溝部	交代	田村
	交代	下村
27	ST	15
33	反則	28

水海道不振の声が聞かれ、熊本クラブの一方的な試合になるかと予想された戦前だったが熊本クラブは本調子ではなく、後半3分3－3とタイスコアに追いつかれるなど水海道の鋭い動きに苦戦した。しかしFW村上、関のコンビネーションが後半シャープな突っ込みと速攻で水海道のデイフエンスを割って強者ぶりを発揮した。水海道は強豪に対して遅攻に出ると云う策戦が一応成功し前半は互角だったが、後半熊本が早いペースに出るとつり込まれたように調子をあわせ自らのペースを狂はせたのが失敗だった（小川）



写真は女子二回戦愛知紡績対日体大前半10分愛知紡右サイドからの得点成る寸前

栃木女高　12（6－4／6－3）7　清水女高

【栃木】		【清水】
篠崎	GK	山沢
野口	B	望月
長	B	長沢
宇井	B	雨宮
臼井	FW	広沢
鶴見	FW	大村
藤沼	FW	斉藤
田村	交代	戸田
高山	交代	遠津
早乙女	交代	石原
柿沼	交代	小原
32	ST	26
33	反則	34

栃木は前半15分4－3とリードされる場面もあったが、鋭いカットインプレーは流石に昨年二位の貫録、食い下る清水を退けた。清水は基本に忠実なプレーを見せて好感が持てたが、やはり実力の開きがかなり見え善戦が精一杯だった。栃木は〝今年こそ〟を期してかなり練習量も豊富なようで、後半はそうした努力が実を結んで準決勝にコマを進めた。（小川）

▽女子準決勝

愛知紡績　13（9－2／4－2）4　桜水商業

【桜水】		【愛紡】
上石	GK	野崎
伊東	B	山崎
木村	B	滝本
永田	B	瀬川
石井	FW	磯部
蓮沼	FW	青木
浅井	FW	沢田
村林	交代	黒野
八ツ田	交代	桑山
今関	交代	太田
	交代	生駒
37	ST	37
11	反則	22

愛知紡績はFW瀬川、沢田、青木の早いパスワークで桜水を問題としなかった。出足から持前の突進力で鮮かなタテ・パスなどを交えて前半5分で6－0とリードしそのままの調子で押し切った。桜水はチーム結成一年の若さが見受けられ試合運びの巧いベテラン愛知紡に屈した格好だが、ここまで進出したのは立派だった（小川）

熊本ク　11（6－2／5－3）5　栃木女高

【熊本】		【栃木】
早田	GK	篠崎
蒲原	B	野口
内田	B	長
井手	B	宇井
今池	FW	臼井
関	FW	鶴見
村上	FW	藤沼
栗崎	交代	田村
島田	交代	高山
	交代	早乙女
	交代	柿沼
38	ST	26
32	反則	29

ともに速攻チームで激しい攻防を見せたが試合の展開力と得点力に優る熊本クラブが圧勝した。とくに熊本は今池、村上、井手のFWトリオの走力が相変らず強力な動きを見せそのシュート力、走力は抜群であった。栃木はポイントゲッター野口に精彩がなく熊本の厚いデイフェンスを破ることが出来なかった。（小川）

▽女子三位決定戦

栃木女高　18（7－1／11－1）2　桜水商

【桜水】		【栃木】
上石	GK	篠崎
伊東	B	野口
木村	B	長
永田	B	宇井
石井	FW	臼井
蓮沼	FW	鶴見
浅井	FW	藤沼
八ツ田	交代	田村
松林	交代	高山
今井	交代	早乙女
片田	交代	柿沼
28	ST	34
8	反則	26

桜水は一回りも二回りもスケールの大きい栃木の速攻に柔りんされて完敗した。栃木は前日当りの出なかった野口が得意のロングシュートを決めて豪放な試合運びを見せたが、当りはずれの大きいこうした攻撃よりやはりパスワークによる攻撃に重点をおくべきで秀れたコンビネーションを見せるFWトリオを擁しているだけになおさらである。（杉山）

熊本、終始愛知を圧倒

▽女子決勝戦

熊本ク　7（4－4／3－2）6　愛知紡績

【熊本】		【愛紡】
早田	GK	野崎
蒲原	B	山崎
内田	B	滝本
井手	B	瀬川
今池	FW	磯部
関	FW	青木
村上	FW	沢田
栗崎	交代	黒野
島田	交代	桑山
	交代	太田
	交代	生駒
39	ST	19
14	反則	24

四度びタイスコアとなる大接戦で昨夏の全日本総合決勝の白熱戦を再現したが、熊本は一度も愛知にリードを許さず常に先行した優位をもって宿望を遂げた。前半4－4のまま終った熊本は、後半もっぱらLW村上に球を集め、村上もよく期待に応えて一人で3点をあげたのが殊勲だった。シュート数は愛知の19に対し熊本は39を記録し、愛知のデイフエンスを簡単に破っていた。守っては愛知のポイントゲッター沢田を徹底的にマークし、更にゴール前のローリングパスで愛知を大きくゆさぶる策戦が効を奏した。（鴛尾）

総評・てい談

ピカ一、女子熊本ク

X　室内選手権も六回を数えて、今年は特に東京で初公開と云う点もあり関心を持って見たのですが大分レベルは上っていますネ。

Z　たしかに一昨年あたりから比べると、一回戦から相当内容のあるゲームもあって水準は上ってます。特に女子は見違えるほど上手くなった。

X　それじゃ女子から話を進めましょうか。まず優勝した熊本クラブなんですが――。

Y　これはもう文句がない。特にあのゴール前のパスワークは絶品ですネ、下手な男子チームはやられるかも知れないヨ（笑）

Z　それほどでもないとして、愛知が不精彩だった今大会じゃピカ一でした。今池、村上、関、それにHBの井手が実によい動きをする。

Y　内田のリードも見逃せませんネ。

X　そうだ。それにひきかえ愛知、栃木あたりは強いには強いがリーダーに欠ける。その点で熊本に内田の存在は大きい。

Z　愛知は全員キャリアがありすぎて失敗したフシも見うけられるナ。

Y　そうネ、ここでもう一度ゆさぶってそれから射ってやろうとしてかえってカットされたりマークされたりしていた。

X　やはり、それは練習不足なんでしょうがたしかに往年の鋭さはなくなって来ましたネ。

Z　でも磯部なんか相変らず上手いネェ。

Y　とも角、なんだかんだと云われ乍ら決勝まで出たんだから大したものだ。熊本と並んで女子界じゃ双璧だ。

X　栃木はどう？

Z　私はむしろ去年の方がよかったと思う。

Y　高校の現役チームとしてはやはりまとまってますよネ一番。

X　今年も栃木はインターハイでは二回戦で半田高（愛知）に負けてるけどこの大会では何時も良い成績ですネ。

Z　太田二高もやらせたら面白かったろうネ。

Y　ウン、あれは良いチームになるナ。

X　その他に目立ったことは――

Z　桜水の健斗。これを買うネ。

Y　でも大谷とのゲームは多分にフロック気味だナ。

X　大谷は勝っと云うより試合を楽しんじゃってるからネ。

Z　しかし東京勢にはよい刺激でしょう。

文句のない男子決勝

X　それじゃ男子の方を。

Y　もうこれは完全に決勝戦が最大の話題だネ。

Z　私はネ、我田に水を引くみたいだけどあの試合は色んなスポーツを通じて昨年度じゃ五指に入る好ゲームだと思う。

Y　あの試合のためにハンドボールファンが出来たかも知れないヨネ。

Z　特にテレビがあったでしょう。試合としては最高の内容でした。もう全然文句はない。

X　しかし、日体としてはあそこ（注、後半8分13―7とリードした時）でまさかひっくり返されるとは思わなかっただろうナ。

Z　また、急にあれから日体が点が入らなくなった。それにしても芝浦の粘りは驚異的でした。殊勲は宮原俊隆だネ。

X　山田を引っこめて宮原を使ったのがかくれた勝因だナ、芝浦としては宮原のロングシュートでせめて得点差を少くしてと云う考えだったんだろうが勝っちゃった（笑）

Y　そう、あの起用はたしかに当ったネ。

Z　東、松田、竹野と云ったベテランを加えても日体は芝浦に勝てなかった、結局現役の差かネ。

Y　日体は山下、井上が一寸期待はずれだったからそう云うことを云えるかも知れんが、あの芝浦の勝利欲と云うか試合への執着心は申し分ない〝王者〟ですヨ。これには日体もカブトを脱がざるを得んでしょう。

X　さて決勝戦の次に位する話題と云うとこれは鎌倉学園高の奮戦。

Z　これも文句ない。それで三位になったでしょう、普通なら前の日あれだけ大激戦をやって負けりゃ一寸ガタッと来るのにそうじゃない。しかも芝浦の若手で固めた滴水会を破ったんですから絶讃ものですヨ。

Y　ランクを作れば芝浦、鎌倉、日体の順にしてもよい位だナ、技術はとも角あの精神力気力は立派なもんだ。

X　あと目についたチームは。

Z　早大、それに滴水会、福島クラブ。

Y　芝浦クラブ。

X　それじゃしめくくりとして技術的なことで何か。

多すぎる反則

Z　一番目についたのは反則の多いこと。速攻を止めるために意識的なファールを犯すことも一因だが、FWが簡単につかまっちゃうと云うことも云えると思う。ドイツの室内を見ておられる外山さん（注、準二氏協会参与）あたりに聞くと、とも角向うじゃ、今の日本のFWよりもワンタイミング速い場所でシュートを射っていると云う。つまりデイフェンスのルーズに巻き込まれる前にゴールを狙っていると云うワケなんだナ、だから今よりもっとスピーディなわけで、今度の大会なんかでも速くなった速くなったと云われるがそう云う点ではまだまだ、脚力と同タイミングのパスワークと云う点で未熟だと思う。

Y　しかしそうなるには一寸遠いナ、そうなりつつあることは認められるが、まだ何と云ったって六年目だし、やはり芝浦、日体あたりのレベルは現在では望める範囲の最上段階まで来ているでしょう。

Z　来年は男子の七人制世界選手権がヨーロッパであるそうですネ。日本の代表を送ってみたい気もするナ。

X　それじゃ最後に第七回大会への注文を一つづつ。

Z　大学勢と西日本勢の積極的参加。

X　地区予選制度の検討。

Y　それに報道関係者にもう少々PRしてサーヴィスせにあ（笑）

X　それじゃ、この辺で――。

王者"芝浦工大"の周辺

鶯尾武治

芝浦工大が全日本室内選手権で優勝し、四大タイトルを握ったとき、わたしは高島監督にこういった。「もう監督をやめるべきだ。



ハンドボール界の王者芝浦工大チーム全日本の四大タイトルを独占し歓びにわく

球史始まって以来の大記録をなしとげたんだから……。来シーズンいくらあなたががんばってみたところで二度とこの大記録は生れない。いまがそのチャンスだ」これについて高島監督は即座に「実は自分でもそう思っている。よいことをいってくれた。すぐ三浦部長（芝浦工大ハンドボール部長のこと）にいおう」といった。ところが二、三日して高島監督に合ったら「三浦部長に先手を打たれた。やめるわけにはいかないよ」とショゲていた。球史以来の大記録を芝浦工大がハンドボール部創立十年でやってのけた。実に立派なものだ。ハンドボールが日本に入ってから約二十五年、その間どの学生チームもできなかった四大タイトル、新聞記者のわたしにしてみれば打ってつけのニュースだった。高島監督にしてみれば「男冥利につきる」といいたいところだ。事実そう思っているに違いない。しかし日体大のOBであり、協会の理事長をつとめる彼にしてみればそんなことを公言できる立場ではない。また周囲の事情があるからいわなかったことだろう。

◇……昨シーズン一年間の記録は別表の通りだが、公式戦30戦29勝1敗、勝率・967。春のリーグ戦最終日に明大に12—11と1点差で敗れただけ。このときは6勝1敗で明大と同率優勝している。七月のインター・カレッジで同志社大を16—10で破ってから全日本総合選手権、関東学生秋季リーグ、東日本選手権、全日本学生王座、全日本室内と23連勝を記録している。明大に一敗したことが芝浦工大にとってクスリになったといってもいいだろう。なぜ芝浦工大がこんなに強いのだろうか。その答えは極めて簡単だ。大学当局がハンドボールに愛情を注いでいるからだ。それに監督さがしが成功したこともある。いまでは芝浦工大といえばすぐ「ハンドボール」と飛び出すほどだ。三浦部長にしろ高島監督にしろ平常は自分の子供か、弟のようにかわいがる。しかし練習や試合になると鬼のように変る。スパルタ式練習とでもいおうか。それは想像以上のものだ（日体大の練習も相当きついときいている）。芝浦工大の部員らは金を出しあって家を借り自炊生活。全員が二人交代で食事の世話をしきびしい団体生活をつづけている。勝つためには団体生活、合宿生活で部内の統一をはかり、意志を通じさせている。部員は大学当局の愛情に対して勝つことによってお礼をしている。三浦部長は置物の部長でない。自分から駒沢グラウンドに足を運んでいる。だから部長—監督—部員が一本の強い線になっている。

◇……練習にしてもただ漫然とボールをパスしていない。実戦と理論とがうまくマッチするように計画されている。そればかりではない。"ハンドボールの虫"といわれる部員が多く先を争ってボールを追う。このなかには宮原（藤）、宮原（後）、服部、山田、塩川、高井、黒沢らがいる。彼らはハンドボールをやるために生れてきたような人間ばかり。大学を卒業しエンジニヤになってもハンドボールをやるといっていた。他の大学にはなかなかマネのできないことだ。これで強くならなければおかしい。一人の部員に「もし恋人が目の前に現われたらどうする…」ときいてみた。そうしたら「恋人なんか問題にしない」という。わたしはこれを信用したい。わたしはハンドボールにかけては全くのズブの素人だ。ただなんとなく自分でもできそうなスポーツだと思ってハンドボールを見はじめた。戦後の二十一年からだ。当時は日体大、教大の天下だったが、芝浦工大は二十五年に発足してから十年目に天下を日体大から奪った。この意気ごみは大したものだ。

◇……細かい記録を追ってみよう。昨シーズン30戦のうち10点以下の試合は関東学生秋季リーグ戦の対中大戦だけだ。30戦の総得点579点、失点277点でダブル・スコアだ。一試合平均は得点19・3点、失点9・2点で常に10点差となっている。これはFWが非常に強力であること。さらにバックスの堅いことだ。FWの選手

は「負ける気がしない」といい、「5点負けても5分あれば追いつく」という。自信満々だ。そういえば全日本室内選手権の決勝で日体大に6点引き離されたが「1分間に1点」といいながらみごと逆転に成功している。恐るべき自信だ。全選手がこの気構えだからコワイものなし。FWの宮原(藤)、宮原(後)、山田、服部のスピード黒沢は足の故障でやむを得なかったが、タテの突進、タテの低いパス、ゴール前のローリング・パスはみごとだ。これがイン・ドアになるとフイルドの倍のスピードになる。山田、服部を両サイドに回して相手の意表をつく作戦、体の小さい宮原あたりがよくもあれほどのスピードを持って割り込みができるものだと舌をまく。

芝浦工大は長身者がいない。もっとも長身者は徹底的にマークされる恐れがある。その点芝浦工大はFW全員が同じタイプなので少なくとも相手をゴマカスこともできる。体の小さいFWが低く速いパスをするから相手のバックスが手こずるのも当り前の話だ。

も実にうまい。

そういうことが芝浦の利点にもなっている。ゴール前のルーズで

例えばスタンドでみていても、この次はAが右へ、Bが左へ回りボールはCがキープして中央を割り左のBへパスするだろうと思っているとその通りになる。見ていても気持ちがいい。これは練習のとき恐らくゴール前のルーズに相当な時間をかけているのではなかろうか。



芝浦工大ハンドボール部部長三浦元秀氏

芝浦工大昨シーズンの総記録

（30戦29勝1敗）

勝敗	スコア	相手	月日	場所
○	23—5	立教	5・2	駒沢
○	19—3	慶応	5・3	〃
○	17—12	早稲田	5・5	〃
○	15—12	中央	5・11	〃
○	23—8	教大	5・12	〃
○	13—8	日体	5・17	〃
●	11—12	明治	5・19	〃
（同率優勝・以上関東学生春季リーグ）				
○	16—10	同志社	7・2	西宮
○	19—8	早稲田	7・3	〃
○	11—8	京大	7・4	〃
○	18—11	明治	7・5	〃
（優勝・以上第2回全日本学生選手権）				
○	33—1	四日市商	8・13	水俣
○	17—15	桜丘会	8・14	〃
○	15—9	中央	8・15	〃
○	24—16	全明治	8・16	〃
○	18—15	全日体	8・17	〃
（優勝・以上第11回全日本総合選手権）				
○	21—2	立教	10・18	駒沢
○	28—8	教大	10・31	〃
○	22—6	慶応	11・1	〃
○	18—10	早稲田	11・2	〃
○	9—7	中央	11・3	〃
○	13—10	明治	11・7	〃
○	19—13	日体	11・8	〃
（優勝・以上関東学生秋季リーグ）				
○	21—5	東北学院大	11・15	仙台
○	26—4	名古屋工大	〃	〃
（優勝・以上第3回東日本学生選手権）				
○	24—17	関学	11・29	国立
（王座獲得・第3回全日本学生王座）				
○	29—3	明星クラブ	1・29	東京
○	14—11	早稲田	1・30	〃
○	23—15	滴水会	1・30	〃
○	14—13	全日体	1・31	〃
（優勝・以上第6回全日本総合室内選手権）				

物差しではかったように選手の動きが実に正確だ。こういう攻撃の型がたくさんあるので相手は困るわけだ。

また両サイドの使い方にも相当苦労していた。きびしい練習から得た細かいプレーが実戦にそのまわ匪まれる。〃練習即実戦〃の形式だから強いわけだ。攻撃も守備も一貫した練習を積み重ねているから四大タイトルを握ったのも不思議ではない。今シーズンは主力が大幅に抜けたので四大タイトルは夢にすぎない。しかしいままでの経験を十二分に発揮すればたとえタイトルを握らなくてもいいと思う。

（筆者は共同通信社運動部）

芝工大の連勝、更に続く

昨年八月以来連勝を続ける芝浦工大は今シーズンに入ってからも春の関東学生リーグで開幕以来防大、慶大、教大、早大、明大を破り五連勝を遂げ通算28連勝を記録した。ハンドボール界のこれまでの連勝記録は高校界で桜台高（愛知）が昭和二十八年から五年間高校界で無敗を続け、昭和三十三年の第九回全日本高校選手権準々決勝で清水商（静岡）に10－15で破れるまで連勝を続けた記録が最も長いレコードで、学生界では戦前、日体大と慶大がそれぞれ24連勝を遂げている記録があるが芝浦工大のように全国的なあらゆる大会に出て連勝した例は過去になく内容的には芝浦工大が最も高いと云うことが出来よう。

芝浦工大の関東リーグ総成績

期	成績
昭25秋	2部に新加盟
昭26春～昭28秋	2部
昭29春	早法立慶教の1部5大学が関東学連を離脱したため，自動的に1部へ昇格3勝1敗で2位
昭29秋	2位（3勝1敗）
昭30春	2位（3勝1敗）
昭30秋	3位（3勝2敗）
昭31春	2位（4勝1敗）
昭31秋	優勝（5戦全勝）
昭32春	2位（3勝1敗）
昭32秋	優勝（4戦全勝）
昭33春	優勝（4戦全勝）
昭33秋	優勝（7戦全勝）
昭34春	同率優勝（6勝1敗）
昭34秋	優勝（7戦全勝）

1部昇格後60戦52勝8敗

（敗戦内訳　日体大6敗立大1敗明大1敗）

地方だより

全北海道、陣容決る

ルーマニア・チームと対戦する日本側十チームのうち、メンバーが決定しているのは五月十日現在、全北海チーム（六月十四日、函館で対戦）だけだが、その他のチームも五月中に発表する予定、

◇**全北海道選抜軍**
▽**監督** 小坂幸一（函館工出）▽**助監督** 佐々木武一郎（札幌師範出）▽**コーチ** 岩井長太郎（日体大出）▽**主将** 皆川茂美（日体大出、教員）▽**FW** 金山英男（函館開発）島津光雄（島津鉄工）天内厳（函館中部高出）八重樫英治（教員）正岡健三（明大現役）天野史郎）王陵部病院）国分邦俊（函館ドック）山本吉春（教員）▽**B** 三橋清一（函館ドック）山口栄一（函館機関区）佐藤清司（北学大現役）佐藤重博（函館ドック）田中昭雄（函館機関区）宮崎光市（北学大現役）泉孝幸（郵政局）石切山捻治（教員）▽**GK** 永山正春（函館ドック）石塚拡（函館商高出）

三国丘(男)京都(女)が優勝
近畿高校選手権

第三回近畿高校選手権は近畿六地区の強チームを集めて五月十四、十五の両日奈良航空自衛隊グラウンドで行はれ男子は三国丘高（大阪）女子は京都女子高がそれぞれ優勝した。

▽男子準々決勝勝者 那賀（和歌山）洛星（京都）明石（兵庫）三国ヶ丘（大阪）
▽同準決勝勝者 三国ヶ丘、洛星
▽同決勝
三国ヶ丘高 14（9—6、5—0）6 洛星高
▽女子準々決勝勝者 那賀（和歌山）豊中（大阪）京都女（京都）三国ヶ丘（大阪）
▽同準決勝 京都女、豊中
▽同決勝
京都女子高 7（3—1、4—2）3 豊中高

宮城県大会では
東北学院大と涌谷高OG

第四回宮城県大会（河北杯）最終日は十五日仙台二高球技場で行はれ、男子は東北学院大、女子は涌谷高OGの両チームが快勝一位となった。

女子決勝リーグ
涌谷高OG 12—0 宮城第三女
涌谷高OG 13—1 宮城第一女
宮城第三女 11—2 宮城第一女
この結果 涌谷高OG、宮城第三女、宮城第一女の順。

▽男子準決勝
東　北　大　8—3　古川工OB
東北学院大　12—6　仙台高OB
▽同決勝
東北学院大 8（5—2、3—2）4 東北大
◇東北学院は前半20分過ぎまでリードを奪えなかったが25分LI高橋が勝越点をあげてから後半の東北大の追撃を2点に食い止め、昨年続いて優勝した。

仙台一、涌谷に栄冠
宮城県高校リーグ

宮城県春季高校リーグは男子七校、女子三校が参加して五月八日仙台二高グラウンドで行はれ、男子は仙台一高、女子は涌谷高が優勝した。順位次の通り、

▽男子①仙台5勝1分 ②古川工4勝1敗1分、④仙台二高、⑤仙台商 ⑥仙台育英高 ⑦仙台高
▽女子①涌谷高2勝 ②古川女高1勝1敗 ③宮城第三女高2敗

秋田で指導講習会

秋田県協会では、県下の選手強化と公認審判員養成を兼ねた指導講習会を5月5日から2日間湯沢で開き成果をあげて終了したが本部協会から派遣された岡村昭二氏（教大OB、協会理事）は、「高校チームに秀れた選手が多く亦一般男子や女子高校の全般的なレベルも決して他地区に劣るものではない。全日本や国体での活躍は充分期待出来る」と語った。

鹿児島工も制覇

第2回県下高校男子選手権決勝は九日、鹿児島で行はれ鹿児島工が優勝した。

鹿児島工 8（2—2、6—1）3 加治木高

向上著しい地方学生界

関東、関西両学連の活溌な動きに対して近年地方学連の動きは斯界の注目を集めるところとなっており、特に一昨年から念願の全日本学生選手権が開かれるようになってから地方大学の技術的な向上は著しいものがある。昨年の学生選抜東西対抗では東軍側がその選手団に東北学連と東海学連からそれぞれ二名ずつの選手を選出して参加させると云う画期的な試みを実現させており、しかもこれら地方代表が中央勢に比してそん色のないプレーを示したことは大きな発見であり収穫であった。今シーズン特に刮目すべき戦果をあげているのは東海学生界にあって無敵を誇り、今年に入って早くも東海学生室内選手権と春季東海学生選手権のタイトルを連取した**中京大**であろう。中京大はハンドボールに限らず学生スポーツ界全般に亘って頭角を表はし始めている新鋭だが、殊にハンドボールでは、王国愛知に在籍し、しかも昨年の全日本高校選手権の優勝校中京商と特殊な関係があるだけに中央勢としても、その実力を軽視するわけには行かず、今夏七月の第三回全日本学生選手権における試合ぶりが注目されよう。その他では東北学院大（東北、北海道学連）が東日本の地方校としては有力と云はれ、これに対し西日本では山口大、熊本商科大あたりに期待がかけられる。関東、関西両学連をピークして、この両学連を目標に地方学生界が奮起することは日本のハンドボール界にとって好ましいことであり、そうなってこそ始めて学生界真の発展が望めると云うものであろう。

高校男子を中心に
国体参加内規を改訂

国体のハンドボールについて日本ハンドボール協会では東京オリンピック選手強化対策方針の一つとして今年度から高校選手の育成と強化を目的に高校男子の部に重点をおいて実施することに決め参加チームのワクを次のように広げた。（　）内は昨年の大会の参加数

▽北海道1（1）▽東北4（1）▽北陸2（1）▽関東6（3）▽東海3（1）▽近畿4（1）▽中国2（1）▽四国2（1）▽九州2（1）▽合計26（11）なお今年度はこの他に開催県代表として地優熊本から一校参加。また、この決定によって一般男子、一般女子、高校女子はそれぞれ十チームに参加数を削減された。

広島大会に三菱レ勝

広島県知事杯を懸けた春季ハンドボール大会は四月二十三、四日の両日修道高グランドで行われ高校男子では盈進商、一般男子は三菱レーヨン、高校女子は山陽女子高がそれぞれ優勝した。

▽高校男子トーナメント準決勝

修道高 14—8 宮原高

盈進商 14—1 山陽高

▽決勝

盈進商 19（9—5 10—1）6 修道高

▽高校女子リーグ戦

山陽女子高 18—0 進徳高

三津田高 11—0 賀茂高

世羅高 4—0 進徳高

山陽女子高 15—2 賀茂高

三津田高 23—0 世羅高

山陽女子高 7—4 三津田高

進徳高 4—3 賀茂高

山陽女子高 9—0 世羅高

三津田高 23—1 進徳高

賀茂高 4—0 世羅高

この結果、山陽女子高が四戦全勝で優勝

▽一般男子リーグ戦

三菱レーヨン 15（12—5 3—8）11 広商大倶

福山クラブ 9（4—4 5—3）7 広商大倶楽部

三菱レーヨン 11（4—4 7—1）5 福山ク

この結果三菱レーヨンが二勝で優勝

京都三大学では同大

第八回京都三大学リーグ戦（京都学生選手権）は四月十日、京大グランドで行われ、同大が今シーズン好調の定評を裏づけて貫録の二勝をあげて一位となったが、攻守に充実した京大が、同大に互角の勝負を挑んだのが注目された。

同志社大 19—8 立命大

同志社大 12—11 京大

立命大 15—14 京大

この結果、同大、立命大、京大の順。

新星大崎電気 東京大会に優勝

恒例の憲法施行記念第十三回東京選手権大会は四月二十九、五月一、三の三日間駒沢ハンドボール場で行われ、一般男子の部には関東大学リーグの上位校や新星大崎電気、古豪三田クラブが顔を揃え賑やかな大会となったが結局一般が大崎電気、高校男子が明星高、高校女子桜水商がそれぞれ優勝して閉幕した。

▽一般男子決勝

大崎電気 16（8—5 8—4）9 芝浦ク

▽高校男子決勝

明星高 12（6—4 6—3）7 神代高

▽同女子決勝

桜水商 16（9—2 7—2）4 菊華高



東京大会高校女子決勝桜水商対菊華高の試合，桜水商のシュート寸前。

熊本県民体育祭 一般男子に菊地市

熊本県民体祭育春季城南、城北地区大会（15日、水俣市浜グラウンジ）

▽一般男子決勝

菊池市 5（2—2 3—2）4 玉名市

▽高校男子決勝

市立商 23（11—1 12—4）5 熊商

▽同女子準決勝

菊池農蚕 7（4—1 3—0）1 尚絅

市立 16（9—0 7—0）0 水俣

▽同決勝は雨のため中止。



東京大会、一般男子決勝大崎チームの攻撃

・・・お願い・・・ 地方在住のハンドボール関係者による〝地方通信〟〝地方大会戦績〟その他各地方ハンドボール界に関するニュースの寄稿を歓迎致します。特に地方選手権関係の記事は万難を排して掲載するつもりです。よろしくお願い致します。宛先は東京都千代田区神田駿河台体協内日本ハンドボール協会編集部まで

ハンドボールむかしむかし

──楽書帳 第一回──

鮎沢周太

▽……石坂洋二郎の「青い山脈」は二度映画化されたがそのはじめの方でいぢの悪い教師になったのはたしか山形勲だと思うが、その人の声によく似たのが高島洌氏だ。

まあさように印象的な人物なんだが、山形の方はいま見るとどうも悪玉の方で一家をなしているようだ。それに反し高島氏の方は十年一日いや十五年一日かも知れない。終戦この方色の黒くなるのもいとわずよく会場に顔を出し、新聞社あたりへも相当なはったりをかけているのは、さすがだ。

▽……十五年前─そう終戦直後のハンドボールというものは「道具立てがいらない」という宣伝にもかかわらずチームが少なかった。たしか全日本だかで男子六、女子二ということがあったような気がするが──それも当時文理大方のグラウンドでやったものだ。といったいまのお茶の水大の裏の記者といってもこれまたボク一人だったろう。社の車なんていうものもなく、大塚仲町で都電を降りてテクったものだ。戦争中雑司ケ谷の菊池寛氏方にイソってたボクはあのあたりがなつかしく取材がてらよく慢歩したものだ。

▽……それからしばらくして協会も式場隆三郎氏を会長に、副会長にサトウハチロー氏を立てて岸体育館でほんとうにささやかな発会式をやったとおぼえている。そのころになって新聞社も二、三くるようになった。式場さんの関係していた東京タイムスが紙面をさいてくれたが何しろ紙のない時だしほんのちょっとだけでボクははがゆい思いをしたことがある。

▽……終戦から十年たったときは大阪支社にいて全日本を取材した。東京を離れて少したっていたので役員の顔をみるとなつかしくて涙がこぼれそうだった。だから福島の国体にはわざわざ志願して取材にいったが

──もういまのチーム数はどのくらいだろう。とてもボクの相像もつかぬほど普及し発達してるようだ。おそらく千に近い数のハンドボールチームが全国で色々な選手権を開いて技を競いあっていることだろう。先年、西独を迎えた国際試合の地方大会で四万を趣す大観集が集ったと云うニュースや学生選手権に三十幾つもの大学チームが集ると云ったニュースは、いやでもボクの心をあの文理大グランド時代の思い出に引き戻す。十五年前、何かあったら一杯のもうといって約束した気がするがそんな本が出るようになったいまこそ文句なしに昔を語らいながら酒杯を手にしたい。とボクは切に思う

（筆者は共同通信社運動部記者）

時評

検討すべき一部八校制

学生界低調の原因をつく

近年日本のハンドボール界の上達ぶりは驚くべきものがあり国際的にも上のレベルだそうだ。そうだと云うのはこう云っているのが協会関係者ばかりだからで筆者自身の見た範囲で云うなら、そうした折紙をつけられるのはホンの僅かなチームそれも一つか二つである。全国的な晋及度や一般の関心が以前よりも上向いているのはこれは確かだが、技術的に国内のレベルがそう手放しで喜べる状態であるかは疑問である。特に実業団ハンドボール界が末整備の斯界にあって、トップ・ゾーンであるべき学生界の低調さは古い先輩連に云はせると「歯がゆくてしょうがない」そうだ。学生界のレベルの低さは、関東を例にとってもA級チームを指折ると学生とクラブチームの数は半々である。メンバーの構成が二、三年前に出たOB中心であり、しかも個々の職場に追われて充分練習が出来ないクラブチームが関東学生リーグの上位校と互角の力倆を見せているのだ。

昨夏の第十一回全日本選手権でも正真正銘の現役チームでベスト4に残ったのは芝浦工大だけである。もちろん、この芝浦工大や関学等の実力は斯界の最上位にあり、学生界総てを白痴扱いにするのは言が過ぎるわけだが、日本のハンドボール界の層の構成を見れば、現役学生チームが日本の最上位に、揃って顔を連ねるのが本来の姿ではないのだろうか。

では何故、学生界がこうも弱く低調なのか。それはリーグ戦そのものが低調であるからだ。関東学生リーグを見てもA級校とB級校の実力差がありすぎる。リーグ戦前から優勝争いの焦点を簡単に絞れるようではとても波乱万丈、興奮のリーグ戦など期待出来るわけがない。そもそもガンになっているのは一部八校制と云う形態である。もち論その八校が揃って強く巧いのならそれにこしたことはないのだが、夢に等しい話である。

関東リーグが八校制で自らを低調にしている折も折、関西リーグは六校制から八校制にこの春から改めた。筆者に云はせれば〃逆行〃であり、「関西よ、お前もか」である。八校制のもたらす最大の欠陥は下位校が上位校を「食おう」と云う意欲を放棄し一部に残ろうと云う体面だけを考へて試合するようになる精神的な面である。これではプレーが消極的になり面白い試合が少くなるのは他言を要するまでもない。そうしたチームが仮に四つあれば、リーグ戦の半数に近いカードが無気力なゲームになってしまう少くとも現状で学生リーグが八校総当り制を布くのは意味がない。関東においての話だが一部四校制を真けんに説く人さえもあるほどである。奮起せよ、学生界!!（S）

東西学生春季リーグ
中間展望

杉山　茂
（NHK 運動部）

ハンドボールシーズン開幕を飾る東西学生春のリーグ戦は、関東が五月八日から、関西は五日から各校自信満々充実の陣容を率いて登場、開幕した。関東は芝浦工大、関西は関西学院大が最近5シーズン連続制覇しており、今シーズンも両校の実力は劣えず、両者の六連覇が期せずして東西リーグの焦点となっている。すでに両リーグとも第二週を終えているが序盤戦から見た各校の実力を展望して全国のファンに供しよう。

（記録は五月十五日現在）

芝浦工大

第一日〇20―5防大
第二日〇7―6慶大
第三日〇24―11教大

昨年無敵を誇った芝工大も当時のメンバーから、服部、宮原（藤）、宮原（俊）のFW、黒沢、高井、村上のHB陣と六人が抜け、今季三勝をあげているものの流石に無人の野を行くが如き感のあった昨シーズンとは比ぶべくもない。特にそのFWは抜けた三人が超一流選手であっただけに見劣りがし、RW佐藤LI金山に進境のあとは見えるがCF山田の好配球を充分に活かす選手がいないのは相手に去年ほどの脅威感を与えない。山田がマークされると動きが鈍くなるのも不安で終盤戦は苦戦が続きそうだ。LW塩川、RI北村にもう一息安定感が欲しい。バックスはCH田口、尾藤、村上のFBコンビGK福本を中心にして堅い所を見せているので、芝工大が史上初の六連覇と昨年八月以来の連勝記録（五月十五日まで26連勝）をどこまで続けるかは一にも二にもFWの出来如何であり、各校の芝浦研究も盛んなだけに楽観は許せない。

しかし昨年までの芝工大はあまりにも強すぎ、ようやく各校と力の均衡がとれたと云う見方もあるが、芝工大の卒業の痛手を待って始めて他校に優勝のチャンスが生じると云うのでは余りにも不甲斐ない。他校の奮起を大いに望むところだが、前人未踏の快記録を作った芝工大が、果してこの記録をどこまで延ばすかは、たしかに一つの興味であり、今季も芝工大の試合ぶりがリーグ戦の話題のピークにあることは間違いない。

日体大

第一日〇16―6慶大
第二日〇7―1防大
第三日〇14―10明大

FWから清川、山下、バックスから豊島と攻守の主軸が卒業したが守備陣がリーグ唯一の安定感を誇りすご味はないがLW井上をリーダーとするFWも試合運びが上手く、まとまりのあるプレーを見せているので久々に優勝を狙える陣容。特に定評のあるGK福田、FB久保田を中心にしたバックスはキャリアも豊富でRB石松CH宇田川、LH旅とベテランを揃え、明大戦では正岡を徹底的にマークし零封するなど老巧なプレーは鮮かで、若いRH青木もソツのない守備を見せているので安心だ。前半の難関と目された明大を接戦の末破っているので、心配されたFW陣にも自信がついただろうし、後半での試合ぶりが興味を持たれる。LW井上、代表的サウスポーに成長しつつあるLI栗山の左サイドに比して越前、川上、小林らによる右サイドのスケールが小さいのが難点と云えば難点だが荒川監督のベンチワークのよさは有力な武器であり、今から対芝工大戦の激斗が楽しみである。ただ昨年春秋連敗した中大戦が問題でFWが当りの強いバックスを苦手とするだけに苦しい。ここさえ乗切れば久々の首位奪還の望み充分である。

早大

第一日〇14―11教大
第二日●7―9明大
第三日〇11―8防大

やや期待を裏切った滑り出しだがCF恵谷、進境著しいLW長沢を中心にして豪快なロング作戦とオープン攻法を常用するFWのスケールの大きさは優勝を目指す日体芝大あたりもかなり警戒を要すものがあろう。しかし昨年の働き手RW吉田（正）を卒業で欠いた穴は完全に埋っておらず右サイドを占めるRW平塚、RI塩坂のプレーは未だしの感がある。新主将のLI吉田（哲）は小柄ながらアシストとしてよく動いており恵谷、長沢の巨砲を活かして巧者ぶりを発揮して無難。バックスはCHの宿将北沢が巾の広い動きでまとめているが、少々荒さが目立ち、北沢以外これと云ったキャリアを持つ選手が少いのも、接戦になると不利で、名手GK鈴木の卒業も痛い。二日目明大に破れたのは早大にとっては不覚だろうがバックスがこまかい動きをする相手に甘くそこをつかれたもので昨秋得た二位の座の維持は少々難しくなった。FWだった森岡をHBに使っているのも疑問。

明大

第一日〇16―13中大
第二日〇9―7慶応
第三日●10―14日体

明大の出足は好調だ。中、早を連破したあたり、昨春一位となった頃を思わせる快調ぶりだが三日目日体を今一歩に追い詰めながら破れたのは惜しい。エース添田の卒業とCF浪越を急病で亡くすと云う悲運に今季の明大はあまり高く買われていなかったのだがっカムバックした新CF正岡が期待通りの活躍ぶりで、これに引きずられて高田、横野らが進境を示して添畑の突進力のみに頼った昨秋とは違い鮮かなパスワークを見せている。欲を云えば迫力と云う点に今一歩のを不足感じる。バックスは溝渕、佐藤のFB陣と出足のよい坪内、清水、浜岡のHB陣との呼吸もよくこのディフェンスはリーグでも光る存在だ。GK板屋も無難で昨春一位を分けあい、昨年芝浦工大に黒星をつけた唯一のチームだけに今年も打倒芝工大の意気は高く、RI浅野RW藤本が調子を出してくれるとFWにムラがなくなり優勝戦線に波乱をまき起そう。

中大

第一日●13―16明大
第二日〇12―9教大
第三日〇13―3慶大

毎シーズン優勝を争うグループに

数えられながら宿望を果せないでいる中大は、今季も緒戦で明大に拙攻して破れ初日から黒星をつけた。中大の欠点は強い相手には強いが弱い相手には案外拙いゲームをすることで、自分のペースを知らぬ試合が多すぎる。そのため大物を食うかわりに取こぼしも多い。明大戦はFB福士、RW平瀬の欠場が響いたのだが、前半4－10とは余りにも不出来だった。それと云うのもFWがCF大脇以外安定感に乏しく、教大戦では平瀬の登場でどうにかまとまったものの石井、田中あたりに調子が出ておらず前評判を裏切っている。井福士のFBとGK磯村のトリオによる最終防禦線の強さはリーグ唯一で攻守兼備のRB井の好技は断然光るが、清水、武田を卒業させたHB陣はRH沢辺を中心に一応ソツはないものの特に強力とも云えない。中大今季の消長は大脇以外のFWの立直り如何にあり、特に日体大戦には自信をつけており、調子づいて大物食いの本領を発揮するようだと芝浦工大とて安心出来ぬ不気味な力を秘めているし序盤戦だけで中大を評価するのは間違いだろう。

教　大

第一日●11－14早大
第二日●9－12中大
第三日●11－24芝大

名門教大も近年、B級に甘んずるシーズンの方が多いのは淋しい。

FWに一級品の深美、及川。それに今シーズンは豊島の進境もあって期待されたのだがやはり深美、及川以外の得点力に乏しく苦戦つづきで上位を望めそうもない。この二人をマークしさえすればよいのだから相手守備陣は楽だが深美は今季早くも16点を叩き出しリーディングゲッターのNO1候補である。バックスは新人GK安田が注目される活躍ぶりで健斗しているがバックスにこれと云った選手がなく試合運びも上手いとは云えず簡単に相手に点をやりすぎる。よい意味での荒さがないのがいけないようだ。終盤戦星を残して名門の面目を保つのが精一杯、上位を狙うには遠いようだ。

慶　大

第一日●6－16日体
第二日●6－7芝大
第三日●3－13中大

昨年春秋のリーグを通じて僅か一勝と云う慶大の惨状は救い難いものがあり、今季はそれでも復調が伝えられたが開幕してみると相変らずレベル以下のFWでは三連敗も仕方がない。芝工大戦ではFBの木本をCFに上げこの木本が4点を叩き出し乍ら後援なく惜敗したが、即製FWの方が得点力があるようでは、名門慶応がこの泥沼からはい出すまでにはまだまだ時日がかかりそうだ。ただ恵れた長身を利して善防するGK大塚兄、シャープな動きと巾の広い守備を見せるCH高久保、それに木本、桜井のFBコンビはリーグでもA級の実力を持つ守備陣でこれは買える。得点力の成長さえあれば活躍が期待出来るチームだけに無策なFWの非力がよけい目立っている。諏訪、西原、斉藤ら若手FWの抬頭が待たれよう。

防衛大

第一日●5－20芝大
第二日●1－7日体
第三日●8－11早大

昭和三十二年秋以来久々に一部に上った防大もやはり他校に比して未だ白星をあげていない。しかし村田、田村のFBコンビRW石母田、RI小川の攻撃力など好素質の選手もおり、コーチには一家言持つ西山監督の指導もあって、一部の試合に馴れさえすれば恵れた体力を利しての攻防で一部の座を安泰にする戦力にまで成長しそうである。斗志があるだけに教大、慶大あたりから勝星をあげれば上々の首尾だろう。

二　部

立教大（昨秋一部）、法大が群を抜いて強い。両者の対戦によって二部の一位が決することは明らかだが、今のところどちらとも断じがたい。その他では第三日目に東京学芸大が東大を降したのがトピックで、武蔵工大、茨城大、千葉大の近郊勢は他校との実力に差がありすぎる。

各校，若手OBを補強
対ルーマニア四大学の陣容

待望久しかった国際試合がルーマニア選抜軍を迎えて六月中旬から七月上旬にかけて、全国各地で十試合行はれることになったのは別掲の通りだが、このうち、関東の大学チームが四校、単独で対戦するのは注目をあび、日本の大学チームの実力が国際的にはどの位のものかを計る絶好のチャンスである。ハンドボール界で日本の単独大学チームが正式な国際試合を行ったのは、過去に昭和十三年九月ヒットラー・ユーゲントチームと日体大が対戦した例があるだけである。関東四大学の布陣は次のように予想される。

▼**全早大**　OBから今春卒業のFW吉田（正）GK鈴木が参加するのは必定。吉田、恵谷、長沢の突進力に長けたFWトリオが再編されよう。この他、かつてのエース五十畑（現姓庄田）がHBとして参加すると云はれGKFB、を兼ねて活躍した小林や一昨年の主将FW降矢が加ろう。

▼**全中大**　今春卒業の武田、清水の両HB、サウスポーとして活躍したFW阿部が加り、昨年の現役メンバーの再現となるのではなかろうか。今季の現役が一応の水準にあるのでOBは要所にキャリアのあるベテランを配すと云った形がこのチームには一番ムキそうだ。

▼**全日体大**　OB、現役のベストイレヴンはそのまま〝全日本〟の肩書をつけても異論はないと云うぐらいその実力は高い。OBからの参加はFW竹野、バックスの東、松田ぐらいで、長い間全日本の代表的なGKだった北川も現役GK福田の成長もあり半々程度の出場に終るのではないか。西日本に散るOB勢が加ると荒川監督のメンバーの人選も一つの興味である。

▼**全芝工大**　昨年の常勝メンバーでやらなければ意味がないと云う声が聞えるほど、注目を持って見られているチームで、その期待通り、メンバーも今春卒業した宮原俊、宮原藤、服部、高井、黒沢、村上のシクステットが颯爽とその勇姿を表わそうまたCFとして国内NO1と云われ近藤も当然加ろう。比較的弱いと云われるGKには今野が参加か。

好調同大、関学の六連覇はばむか

関西

関西学生リーグは去る五日に開幕した。今シーズンから加盟校の増加にしたがい、前シーズン二部の上位にあった大阪府大と甲南大が一部に上って八校となり賑やかになったが、優勝争いは相変らず、常勝関学を中心として関大同大の三強にしぼられており、関学の六連覇なるか、好調同大が久々に宿望を遂げるか、黒馬関大の健斗で昨春同よう三校同率の大接戦となるか、興味はここらあたりにあろう。第一週を終って一部各校の陣容を打診してみた。

関学

関学も前ほどではなくなったと云う見方をする人が最近では多くなり、名門関学には残念な言葉だろうが、しかし、学生王座を六年連続した頃の快攻快守が十年も続くワケはなし、余りにも過去の実績と名声が輝やかしかったばかりに評される言葉だと思ってよい。事実は昭和三十二年秋以来五連覇、東の芝浦工大と好一対の無敵ぶりで相変らず西の横綱の貫録は充分である。今年は四月末の関西学生トーナメント決勝で同大に初の不覚を喫して破れ〝春に弱い〟ところをのぞかせたがFW日向、HB宮川GK小河と学生界を代表する名手を要所に配した布陣は春季リーグ優勝のNO1候補にあげてはばからず、特に従来の遅攻に関東流の速攻を加えたチエンヂ・オブ・ペースはマネ手がなく、昨年の学生王座で対芝浦工大との後半に見せた速攻は日本一と云はれる芝浦工大のそれと比べて見劣りするものではなかったし、エース日向と市場、宮地らのコンビネーションもよく一試合コンスタントに十五点は入れたいと云う意欲も期待出来る。この攻撃力以上に強力なのが富川、小河を主柱に湧永山淵のFBコンビと安原、村田らで組むディフエンス陣で、おそらく学生界では日本一と云ってもよい堅守である。危惧はFWからコンバートの村田だが、富川のリードは定評があり心配はいるまい。緒戦で甲南を19—9と軽く屠って好調な滑り出しである。

同大

関学に対して自他共に許す対抗馬で昨年のメンバーからCF内田を卒業で失ったのは痛いが今藤、石橋のFWと神前、中島、中江のHBトリオが健在。GKの中を含めてこの守備陣の対関学研究は注目されるところであり、春のトーナメントで関学を破った自信も大きい。ただ今藤がマークされるとボールの廻転が鈍く第一日に府大に苦しめられており石橋、植野あたりの奮起がないと苦しくなる。バックスは水沢が抜けただけで呼吸もあっており、特にそのHB陣は関西学生界のピカ一である。対関学戦は早くも激斗が予想されているが、気力負けさえしなければ、久々の優勝が充分可能な戦力である。

関西学生春季リーグ戦（一部）日程

5月5日（祝）	学—甲	同—府	関—神	京—立
5月15日（日）	関—立	甲—同	学—府	神—京
5月21日（土）	関—府	京—甲	学—立	同—神
5月29日（日）	同—立	府—京	関—甲	神—学
6月5日（日）	立—府	神—甲	同—京	学—関
6月11日（土）	神—府	立—甲	京—学	同—関
6月12日（日）	甲—府	神—立	関—京	同—学

注……学＝関学，府＝大阪府大（何れも西宮第一球技場）

関大

関学、同大の間隙を狙って虎したんたんなのがこの関大である。エース高村を筆頭にして松田、寺田、江尻らのFWは最近、豪快味に加えて巧味を増して来ており、ダークホースである。関大の欠点は得点力もあるが失点も多いことで、思はぬ相手に苦戦する例がしばしばあり、昨秋も京大に足もとをすくはれている。無キズで終盤戦に進入するようだと、優勝戦に進入するようだと、優勝戦線は昨春同よう、三強のつぶしあいとなり、面白いことになる。不安はバックスでリーダー山田とGK範内を失っておりFBの熊本、HBの中村らがどこまでやるかが問題だ。しかし、勝負がもつれ込んでくると高村と云う絶対の決め手を持っているだけに強く、昨春も関学を負かしておりそれ以上に今季は旋風を巻き起す期待充分。関学、同大ばかりが優勝していた関西リーグで初の優勝も望めよう。

京大

メキメキ腕を上げている近年の京大の躍進ぶりは驚異的で昨秋は遂に関大を食って三強に列したホドで、常用する徹底した遅攻戦法は昨夏の全日本学生で芝浦工大を苦しめ高島洌氏（協会理事長、芝工大監督）をして「堂にいった遅攻だ、鮮かでさえある」と云はしめた。今季は更に有利なことに昨年のメンバーから小西と黒住が抜けただけで、全日本級の実力を有すGK本田を始め好守の石崎、小野、FW川野、酒井らが健在で京都三大学では同大に一点差の善戦を見せており関大よりも上位に買うムキもある。チームワークもよく、試合運びも上手なので再び三位の座も狙えよう。これと云った強力なポイントゲッターがいるわけでもなく、それだけに一人がマークされるとモロいと云う心配はないが迫力に乏しいキライがある。ともあれ豊富な練習量と斗志によって支えられる京大の健斗は今季の一つの興味に違いない。しかも今季は京都大会で破れた立命大を第一戦に14—6で破り雪じょくを遂げ意気上っている。

立命大

古い球歴のチームであり乍らこのところパッとせず最近は下位を低迷して昨秋は遂にテールエンドとは淋しい。前半はとも角、後半にモロさが表はれるのは体力と気力に欠けるからで奮起が望まれよう。特にバックスは堀田を欠いただけでまとまりがあり、今シーズンはカムバックに絶好のチャンスだと云はれ乍ら、第一戦で無気力な試合ぶりを見せて京大に大敗しており、今シーズンもBクラスを返上することが難しくなった。生田を卒業させ

たFWは福田、西田、小野田、野間、五十棲が第一線でキャリアに不足があるワケでもないのだが、勝利に対する粘りがない。守備の中心はGK吉田、佐々木、横畑の両FBあたり。とも角、攻守にすごみが全然感じられないのは、かっての立命館大にはなかったことである。このままでは関学など上位校にますます差をつけられてしまうだろう。

神大　第一戦で関大と当り12－14と破れたものの神大悔れずを印象ずけた。殊に後半は押し気味で、今後の試合ぶりが注目される。これと云った選手はいないが、昨秋の東西対抗で一年生ながな西軍に選ばれたFW花林を始め東出、西本、天野らが健在でこの攻撃陣はスケールこそ小さいがまとまっておりバックスもCH石橋を卒業させたのは響くがFB立花、GK根岸が進境を見せており上位には案外ウルサイ存在となりそうだ。しかし得点力が爆発的なものでないので大量点は望めず、A級を望むのはムリなようである。

甲南大　一部校の増加で29年春以来冬の昇格を遂げたが、部歴は古く、なかなかの名門である。しかしこれまでは、攻守にアンバランスで十シーズン以上も一部入りを果せなかった。今季どこまでやるかは全く未知数だが、一部の強豪を相手では少々荷が重そうだ。カンバック第一戦では関学に前半で勝負を決められており攻撃力、守備力とも未だしの感がある。川副、松田を主力のFW砂堀をリーダーとするバックスが、リーグ戦が進むにつれどこまで整備されるかが見ものだが、卒業したGK青野の穴が埋っていないのは何としても痛い。

府大　甲南大と共に今季から一部に加ったのだが、ラッキーな昇格とは云え初の一部入りでイレヴンの張り切り方もすごく、前哨戦のトーナメント大会では準決勝まで進み、リーグ戦でも緒戦で優勝候補同大に互角の勝負を挑み、11－12と一点差で惜敗すると云う善戦ぶりだった。川瀬、根宮のFBコンビと定評のあったFW佃が卒業しているがGK辻本、CH日光、FW妹背瀬恒と要所に巧手を配しており、なかなかソツのない試合ぶりを見せている。前半戦で自信をつけるようだと、二～三勝が期待出来、府大としては上々の首尾をあげることになるのだが……。

▽関西学生リーグこれまでの成績

▼第一日（5月5日・西宮）

関学	19	（12－4 7－5）	9	甲南大
同大	12	（4－6 8－5）	11	大府大
関大	14	（8－5 6－7）	12	神大
京大	14	（8－4 6－2）	6	立命大

▼第二日（5月15日・西宮）

関大	18	（10－3 6－5）	8	立命大
同大	17	（10－2 7－3）	5	甲南大
関学	14	（6－2 8－1）	3	大府大
京大	12	（4－5 8－4）	9	神大

全日本学連今年の抱負

（関東学生ハンドボール連盟理事長）　中沢重夫

新シーズンの開幕で、全国各地のハンドボール界も活況を呈しているようですが、全日本学生ハンドボール連盟も新しい抱負と心意気を以って今シーズンの開幕を迎えました。今年の学連がやりたいことと云いますと、一体どれから先に云ってよいやら判らぬほど多く、果していくつ、どれだけその念願通り達成されるかは判りませんがとも角も〃限りなき前進〃を合言葉に、旧年ますますの発展を目指して歩んで参りたいと思います。

特に心がけたいことは四年後に控えた東京オリンピック・ハンドボールの日本代表として桧舞台を踏むべき選手はこの学連を母体として選りすぐられた者が、その多数をしめるのでないかと考えられるだけに、学連としてもあらゆる思考をめぐらせて日本を代表するに価する選手の育成に努めて参らねばなりません、本部協会でも全ての面においてその力を総動員してこれにかかって居る事と思いますが、我々学連でも、「日本ハンドボール界における技術の最高度のものを闘はせて居る」と考えてもよいこの大学のプレーをより一層その内容を高め、又深く究明するべく努力していかねばならないと思います。これ等選手を擁す学連においては、その内部において選手に対する最も能率的な有効な指導をなして行くべき指導者特に各大学の有能なるOBの集りが出来たら非常に価値あるものと考え、この集りにおいて、全ての面についての究明をなし選手の強化策や、そして四ヶ年では短いかもしれませんが、そのかたい地盤の上に成り立った選手が育成出来たら、などと大それた夢の様な事も考えて居ります。幸にして近々世界選手権第二位のルーマニアの来日が決定。学連関係五チームが対戦し世界のハンドボール界の様子を知るにも又学ぶにも非常によい機会の到来を得ています。

また、毎年種々と問題が提起されている審判上の問題も専門部会を設けて研究を行い、同時に豊富な人材の養成にも心掛けたいと思っています。最後に是非実現させたいのは地方大学勢と都会の大学チームの密接な交流です。新しい大学チームの誕生へも力を注がねばならないのですが、地方大学チームが万難を排して全日本学生選手権に参加され、その他出来る限り中央ハンドボール界の大学チームと手合せする機会を作って貰いたいと切望します。

学生シーズン・幕開く

同大、常勝関学を破る

関西学生春季トーナメント

関西学生春季リーグ戦の前哨戦として第八回を迎えた今年度の**関西学生トーナメント**は四月十六日から西宮など四グランドで関西学連十五校が参加して行なわれた。

▽一回戦

甲南大（一部） 不勝戦 大工大（二部）

関大（一部） 14（5－7、9－4）11 京大（一部）

立命大（一部） 不戦勝 大阪学芸（二部）

阪大（二部） 20（10－1、10－5）6 大経大（二部）

同志社（一部） 19（10－7、9－1）8 神大（一部）

大歯大（二部） 10（7－3、3－6）9 桃山大（二部）

府大（一部） 8（2－3、6－2）5 大市大（二部）

▽二回戦

関学 12（7－1、5－5）6 甲南大

関大 12（6－4、6－4）8 立命大

大府大 11（4－5、7－4）9 大歯大

同志社 17（9－2、8－6）8 阪大

▽準決勝

関学 13（8－4、5－6）10 関大

同志社 15（6－4、9－3）7 大府大

▽決勝

同志社 6（3－1、3－4）5 関学

【後記】第一回大会以来、この大会で無敗を誇っていた関学も八連覇を目の前に遂に同大に惜敗した。同大は準決勝の後半に関大の食い下りを許し苦戦した直後で疲労の色をかくせなかったのも事実だが同大の文句のない斗志の勝利であった。この二校と関大の実力は紙一重で、これに曲者京大と立命大のからむ今春の関西学生リーグ上位陣の充実は熱戦を期待出来前哨戦の役を充分に果したトーナメント大会であった。

中京大、東海学生の王座に

第七回東海学生春季ハンドボール選手権大会は五月一日から三日間、岐阜大グラウンドで行われ滋賀大（滋賀）を加えた東海地区の八大学が参加したが、予想通り、中京大が圧倒的な強味を見せて優勝した。なお、これで中京大は今春一月の東海学生室内に続き、東海の二大学生タイトルを得たことになる。

▽Aグループ

岐阜大 10－5 名古屋工大

中京大 24－5 愛知学芸大

中京大 22－2 名古屋工大

愛知学芸大 5－4 名古屋工大

岐阜大 10－6 愛知学芸大

▽Bグループ

滋賀大 14－9 三重大

名古屋市大 21－1 名古屋大

三重大 12－9 名古屋市大

名古屋大 11－5 滋賀大

溶賀大 8－3 名古屋市大

名古屋大 16－4 三重大

滋大、名大は同率ながら名大が滋大を破っているので上位となり、この結果中京大と名大の間で優勝戦が行われた。

▽決勝戦

中京大 23（9－1、14－2）3 名古屋大

昭和35年度主要大会日程

▽対ルーマニア国際試合（6月12日～7月3日）＝詳細は本誌2頁参照

▽第3回全日本学生選手権（7月13日～7月17日・東京）

▽第11回全日本高校選手権（7月31日～8月4日・倉敷）

▽第12回全日本（男子）総合選手権（8月10日～8月14日・秋田県大曲市）

▽第12回全日本（女子）総合選手権（8月10日～8月14日・秋田県湯沢市）

▽第3回全日本教育選手権（8月19日～8月21日・東京）

▽第15回国民体育大会ハンドボール競技（10月26日～10月31日・熊本県水俣市）

▽第4回全日本学生王座決定戦（11月27日・西宮）

▽第7回全日本総合（男・女子）室内選手権（36年1月上旬，東京又は静岡）

▽第1回全日本教育系大学選手権（期日末定・東京）

▽第1回全日本実業団選手権（期日末定・名古屋又は東京）

▽関東大学リーグ戦（駒沢）
春季＝5月8日～5月29日
秋季＝10月16日～11月6日

▽関西学生リーグ戦（西宮）
春季＝5月5日～6月12日
秋季＝末定

▽第10回学生選抜東西対抗＝予定（11月27日・西宮）

▽この他，東西大学各定期戦，第8回早慶定期戦（9月9日　国立競技場ナイトゲーム＝予定）第10回西日本大学大会，第3回東日本学生選手権（11月12日又は13，名古屋＝予定）第4回国立六大学選手権大会など学生界恒例の大会が予定されている。

全国各地区

今シーズンの展望

＝各県別有力チームの紹介・特集＝

薫風五月を迎えて地方ハンドボール界も日毎に活況を呈し、今年は国際試合を迎える地区も多く例年には見られぬ華かな話題に賑っているようだ。そこで本誌では全国都道府県協会の御協力を得て、各地方毎に全国36地区の今年の有力チームを探つて見た。

（編集部）



（両陛下ご観戦の栄に輝やいた昨年の国体）

北海道

昨年の国体一般男子で函館サンダー倶が芝浦クラブ（東京）を破ったのはニュースだった。これを見ても北海道のハンドボール界の実力がいかに侮り難いものであるかが充分判り、かって全国高校の優勝校函館工を生んだ函館を中心にして今年も国際試合を行うなど活溌な動きが見られる。しかし、函館以外のチームはやや取残された感じで、道ハンドボール界の真の発展は函館以外の地区の強化如何にかかっていると云えよう。今年も道内の主導権は函館サンダー倶楽部、函館工、函館東高（女子）函館フレップクラブ（一般女子）と云った函館勢が握ることになろう。

東北

近年、東北におけるハンドボール熱の昂揚と斯界の躍進ぶりは目を見はらされるものがあり、特に今シーズンは六月に仙台でルーマニアを迎えての国際試合（対全宮城）八月には秋田県下で第十四回全日本総会選手権が開かれることになっており、ますますその発展は急カーブを描いて高まるものと思はれる。昨年の国体で高校女子で二位になったのを始め各部門に健斗し皇后杯得点で一位天皇杯得点では大阪、福岡、熊本についで四位を得た**宮城県**は女子と高校に好チームが多く昨夏インター・ハイを開催してからはそのレベルもかなり上って来ている。高校男子では仙台二高、仙台一高仙台商の仙台勢と古川高が有望。女子は高校、一般とも全国に名をはせている涌谷高が現役、OGと も今年も攻、守に安定しており、時にOGは全国優勝を目指して強化に懸命である。

これに対し、一般、大学チームはやや中央勢に押され気味で僅かに東北学院大と全宮城が目立つ程度である。全宮城がルーマニア戦の経験を活かして全日本などで調子ずくようだと面白い。**秋田県**では今夏の全日本総合の開催に大変な熱の入れようで、一般男子の湯沢クラブや一般女子のオール秋田等が期待される存在。高校界は男の湯沢高、女子の秋田和洋女子高がA級で、この他、全日本開催を機に、県下の審判員の養成強化を目指す等意欲的なところを見せている。**青森県**は一般男子の青森クラブが充実したメンバーを揃えており、これまで遠隔のため参加が難かしかった全日本にも今年は出場の機会を得ており活躍が待たれている。高校、大学界では青森高、弘前大のそれぞれ独壇場。**福島県**に目を移すと今春の全日本室内で男子の福島クラブが一応の戦績を残したため県内の各チームも意を強くしており、一般男子の安積クラブ、一般女子の福島クラブ大学界の福大学芸学部などは全国的なレベルに近付きつつある。高校界は男子が安積高、福島高の争い、女子は福島女高が他をリードしている。**岩手県**は相変らず一般男子では白亜クラブが強い、高校男子も盛岡一高が今年も強力なチームを編成しているようでこの男子両チームは全国的な大会に出ても恥ずかしくない実力を備えているが、女子はいささか低調で特筆すべきようなチームがない。大学チームは岩手大一チームのみで他県との積極的な交流が望まれよう。

北関東

ルーマニアを迎えて全群馬が国際試合を行うことは単に群馬ハンドボール界に留らず北関東ハンドボール界にとっても大変意義がある。足利、桐生、石橋などは以前からハンドボールの名門校として知られ、これらの高校チームを基

底にして北関東のハンドボール界は育って来たのだが、それらの名門校の先輩の絶ゆまぬハンドボールへの情熱が国際試合を迎えるまでに実ったのだと云ってもよいだろう。**群馬県**は伝統の桐生が一般の桐生クラブに面影を残すのみで高校男子の天下は富岡高、前橋商に握られている。女子は高崎市女高、高崎女高、富岡高がベスト3、一般は男子が前記の桐生クラブに富岡クラブ、女子は高崎勢のOGが元気なプレーを受けている。

栃木県は足利勢が名門らしく他の地区を圧しており、今年もその天下が続きそうだ。すなはち一般男子の足利球友会、高校男子の県立足利高、一般女子の足利女高OGと云ったチームがそれで、足利高は25年第一回30年第六回と5年おきに全国大会で決勝に進んでおり、今年は丁度、三回目の5年目縁起の良い年廻りである。足利勢の対抗は石橋高、烏山高。高校女子は全日本総合室内で健斗した栃木女子高が断然たる強味を誇っており期待がもてる。**茨城県**は高校ハンドボールの盛んな所として知られ、特に女子の水海道二高は第八回全国高校で優勝を経験している名門。今年も同校を中心に太田二高、笠間高、岩井高が県のビッグ4、男子では石岡一高、麻生高の常勝チームに土浦工、真壁高あたりが肉迫している。一般では茨大クラブが東京チームとの交流も多く水工クラブ、石岡クラブ、麻生クラブ、笠間クラブ等と共にA級にある。一般女子では古豪水海道二高クラブが健在だ。

東京

大学チームに全日本のトップ級が並んでいるのは他のスポーツと同じだが、どうも一般チームや高校界、女子界はパッとしない。その中で新生大崎電気の登場は注目してよいものがありその他三田クラブ（慶大OB）芝浦クラブ、旭桜クラブ等今年は例年になく大学OBを主体にしたチームが張切っており一般男子の充実ぶりが目立っている。高校界は男子神代、明星学苑、都二高、世田工が相変らず強く女子は二商、井草に代って桜水高が最近頭角を表はし始めている。

南関東

千葉、埼玉が一、二のチームを除いては全般的に不精彩な南関東では**神奈川県**が一般、高校界とも群を抜いた活溌さだ。それを代表しているのが高校男子の鎌倉学園一般の全神奈川の活躍ぶりである。鎌倉学園は昨年全日本、国体で優勝戦に進み中京商（愛知）と共に高校界の竜虎と云はれたチームだが、その実力は今春の全日本綜合室内で大学、一般クラブに伍してヒケをとらぬ活躍を遂げて一躍全国ファンの注視を一身に集めることになったが、今年も関東学院、法政二高あたりの実力が上ったとは云え県内一の座は揺がない。一般チームは陸上自衛隊、三春台クラブ、全鎌倉あたりがA級だが、全神奈川と云う県下のピックアップチームが別にあり、メンバーが揃えばこのチームが文句なく強い。しかもルーマニアとの対戦が決定しており全国有数のクラブチームに全神奈川が成る日も近い。男子の活況に比べ女子は一般高校とも非力。**埼玉県**は高校チームの強化に熱を入れているのが特色で男子では大宮高、浦和高あたりがまとまりを見せ、女子では熊谷商工、熊谷女高が粘り強いものを持っている。一般チームは末成熟の感が否めない。**千葉県**では東京に近接しながらこれと云った話題がない。協会自身の若さによるものだろうが千葉大の関東学連への加盟などあり今後の活動に期待をかけたい。

山静

静岡県は昔からハンドボールの盛んな所で、その中心勢力であった清水商（高校男子）静岡城北高（同女子）城北クラブ（一般女子）と云った名門は、今年も一こう力が劣えず、それぞれの部門で全国優勝さえ狙える実力を備えている。一般男子は県下の両横綱清商クラブと清水橋クラブが互角の戦力を誇っており、甲乙何れともつけ難い。県下精鋭をピックアップして全静岡がスムースに編成出来たならそのチーム力は全日本での黒馬に推して充分である。一方の**山梨県**は静岡への対抗意識が好結果を呼んで高校男子の塩山高、日川高などは全国でも上位に指折れる好チームになっており、高校女子でも山梨高が期待の持てる存在だ。一般では高嶺クラブ（男）と梨窓クラブ（女）が強そうだが、山梨の一般女子の伝統は古いものがあり、今年あたり昔日の面影を偲ぶに足る強豪が出てくれることを望みたい。

東海（三岐）

ハンドボール王国**愛知県**も昨年の台風被害で一時は後退したが、流石に古豪、強豪相乱れる地区だけにその立直りも早く、今春の全日本室内女子で愛知紡績が二位になったのをノロシとして、再び昔日の隆盛に近ずいているのは結構なことだ。ルーマニアを迎知健在えて国際試合が予定されるのも愛を全国に示威するに充分だ。特に高校界は近年「全日本で勝つよりも愛知で勝つ方が難しい」と云はれるだけあって昨年のNO・1中京商以下桜台高、端陵高、豊橋、時修館、岡崎工など名門が並んでいる。女子は相変らず半田高と稲沢高以外は力不足。一般は男子の桜丘会、女子の愛知紡績の王座はここ当分動きそうもない。なお学生界の黒馬中京大がますます好調のようだ。**三重県**は四日市勢の抬頭が注目され高校男子では四日市工、四日市商の争い女子では四日市高が他を僅かにリードしており、津高にも好選手がいる。一般女子では鵜森クラブ、大学では国立三重大がある。**岐阜県**は大垣地区の躍進が盛んで、高校男子の岐阜工、岐阜商を除いては各部門とも上位は大垣南高系のチームで占められている。高いレベルを持つ愛知と連がりながら岐阜勢は以前から華かな活躍を示さないのは何処に原因があるのだろうか。

北信越

北信越ハンドボール界の発展は東北と並んで近年刮目すべきものがある。その中心は**富山県**で先年のドイツでの国際試合で全富山が善戦を見せたのは記憶に新しい。それに一昨年国体を氷見市で開いてから一般の関心も高まり好チームが目立って増えて来た。高校界

は男子は氷見高が今年も相変らず強く、女子は富山女高、有磯高、高岡商など強者が並んでいる。一般は男子が富山クラブ、大山町体協と云ったクラブチーム、女子は氷見クラブ、富山ＯＧ、有磯ＯＧなど。**石川県**はかって小松高や羽咋高を擁して全国女子高校界では水準以上の地区だったが近年は富山勢に押され気味だ。今年は高校男子では小松実業高を筆頭に津幡高、金沢泉丘、女子では名門羽咋高や小松高と並んで金沢勢に期待がかけられる。一般は女子の石川クラブ以外、男女を通じて好ティームに乏しい。**長野県**は昨年から県総合選手権を開くなど活溌になって来て、これまで一昨年の全日本高校で上田高が四位なった以外は大した実績がなかっただけに今後の動きが注目される。男子は一般の浅陽クラブと上田クラブがリーダー格で高校は北佐久農高、上田高、屋代東高、女子は一般が上田クラブ、高校は男子と並んで北佐久農高がいい。長野県のチームに望まれるのは中央大会への積極的な参加であろう

この他**福井県**が今春既に県下指導者講習会を開き、着々準備を進めている。協会への正式加盟ももはや時間の問題であり、その躍進が期待される。

大　阪

大阪は兵庫と並んで日本ハンドボール界のトップゾーンだけに今年も話題豊富である。大学界の消息は他稿にゆずるとして一部男子で国体優勝の名門大阪クラブを筆頭に女子ハンドボール界の老舗寝屋川も健在。高校男子では桜塚高、高津高、三国ヶ丘高と云った所が上位校、女子は豊中高大谷高岸和田がＡクラスである。また昨夏の全日本で4位となった一般男子の豊陵会は質量とも申し分ないメンバーで全日本に今年も出れば優勝有力候補の一である。

京滋及近畿

京都は京大、同大の二つの大学チームが実力をとみに上げており、これが京都ハンドボール界のレベルを引っぱり上げて活気のある動きを見せている。高校男子では伏見高、平安高、洛星高、洛東高が実力伯仲、一般男子は京都クラブが他を抜き放しており、全国的に見てもレベルはかなり高い。女子は高校一般とも京都女子高と同ＯＧが抜群である。**滋賀県**はハンドボール界では陽の当らね場所。しかし今年あたりは滋賀大の充実もあり県内諸チームに刺激を与えれば彦根勢を中心にまとまりはあるだけに徐々にでもそのレベルは上向きとなろう。高校では過去に全日本に出た経験のある八幡商（男）彦根東、彦根西（以上女）が今年も強い。**奈良県**は高校、一般とも近年あまりパッとした成績をあげていず低たい気味だが、その中で教員チームの興東クラブが昨年、一昨年と二年続けて全日本教員選手権の決勝戦に勝進んで一人気を吐いている。今年も県内で全国Ａ級の実力を持つチームは云えばこの興東クラブぐらいのものであろう。**和歌山県**は大阪に近接していながら相変らず各部門とも那賀系チームの独り舞台である。那賀に好敵手が生れない限り和歌山全般のレベル向上は望めないのではないか。男、女とも伝統のある那賀高が全日本高校で今年はどこまでやるか、それだけが興味である。大阪としのぎをけずっている**兵庫県**は一般男子の神戸クラブと学生界西の横綱関学を中心にして古い伝統を誇っている地区だが、一般高校界は強チームを揃え乍ら「全国優勝」には不思議と縁がなく、その方はもっぱら関学に委せきりである。神戸クラブや高校男子の兵庫工は充分、全国一、二を競うに足る実力を持っているのだが試合運に恵れないのは惜しい。女子は尼ヶ崎勢が強く一般では尼崎クラブ、高校では尼ヶ崎高が他チームを引き放している。

四　国

愛媛県のハンドボール界を代表する新居浜勢が、今年も高校男女、一般女子の上位を占めており一般男子では実業団ハンドボールではすでに古豪になった住友化学菊本が強そうだ。高校男子の新居浜工は近年非常に秀れた選手を生んでおり昨年も全日本高校、国体高校ともビッグ4に残って全国優勝への地固めをしており今シーズンの成長ぶりが見ものである。その他では今治西、松川工等が有力。高校女子新居浜東と新居浜西の争い。**高知県**では中央からコーチを招いて県内全般のレベル向上を目標にしたいと云う県協会の方針が明らかにされており、さし当っての全国的な強豪は各部門とも少いが将来はこの熱意が必ずや実るものと思はれる。各部門の県内のトップチームは一般が男女とも高知クラブ、高校男子が土佐高、高校女子が高岡高と云う定評である。**香川県**は高校勢がよさそうで高校男子で全日本高校へ三年連続出場を狙う坂出工も楽観は許せない。高松勢の主力は古豪高校一高で、一般でもここのＯＢは強い。女子に好チームが少いのは淋しい。

中　国

岡山、広島、山口とハンドボール界の名門地区が並んだところは、地区対抗をやれば中国地方は全国的にも一、二を争うほど、各県に散る好チームは数多い。特に**山口県**は、今シーズン高校男子各チームの実力が接近しており、特に徳山高、下関西高、下松工、下関幡生工の四校はこの何れもが全国大会に出れば全国上位にランクされる強力校と云うのだから壮観である。高校女子は徳山高が他をリード、一般女子でも徳山のＯＧが自他共に許すＮＯ１である。一般男子は強豪山口クラブが今年も独走の形で、全国的な大会での健斗が期待される。大学では山口大が着実に伸びており全日本学生での試合ぶりが興味深い。**広島県**は高校男子の盈進商がホープだ。昨年は試合運に恵れなかったが、国体で鎌倉学園（神奈川）と演じた激斗は印象的な好試合で、インターハイの黒馬的存在と云えよう。この他、一般男子では三菱レーヨン、高校女子では山陽女子高、三津田高、大学では広島商科大がそれぞれ県内にニラミを利かしている。**岡山県**は伝統的に見ると女子のレベルが全国水準の上の部にあって全日本高校や国体一般に全国優勝の歴史を持っているが近年は

焦点!!　芝工大を巡る争覇

＝今シーズンの話題をひろう＝

今年のハンドボール界は話題に恵まれている。

六月に来日するルーマニア選抜軍との国際試合をピークとして、国内的には芝工大を巡る全日本選手権の争覇、男子高校界の躍進ぶり、女子界の充実、実業団選手権の開催など、史上最高の話題に賑ったと云はれる昨シーズンをはるかにしのぐ活況が早くも予測されている。

国際試合に関しては稿を改めて触れる時があると思はれるのでここでは省略し、国内行事を中心にして今シーズンの話題をとりあげて見よう。第一に芝工大を巡る全日本選手権の争覇だが、昨シーズンのべ三十チームが挑んで果せなかった打倒芝工大のスローガンは今年も引続いてかかげられ、ますます激れつの度を増そう。殊に芝工大の連勝記録をストップさせるのは日体系以外になしと云はれているだけに互いに斗志満々であろう。日体系以外に芝工大を破り得るチームを全国に求めれば関東学生界よりむしろ関学、同大と云った関西勢であろう。殊に関学は一昨年の学生王座では劣勢を噂されながら見事予想をくつがえして王座につき、改めて名門の地力を認識させた実績があり、西の横綱の貫録は充分である。この関学に優る布陣と云はれる今シーズンの同大の抬頭も注目してよい。この他、全国のAクラスと目される全明大、豊陵会（大阪）桜丘会（愛知）大阪ク、大崎電気（東京）らも、機会を待って芝工大から王座奪取を狙っており、これらの角逐は見応えのある試合を展じよう。中でも大崎電気は昨年の芝工大のメンバーが中心となっているチームだけにこの対戦はさぞかしスタンドの話題を賑はそう。大崎電気のメンバーは自ら樹てたレコードを自ら崩壊すると云う皮肉な結果にもなりかねない。

一方、高校界、特に男子の充実は近年目覚しいものがあり、地方高校チームの指導者の熱意あるコーチは日本のハンドボール界の屋台骨を支えるまことに偉大な力であると云はねばならない。特に今年は国体の高校男子チームの参加のワクが大巾に広げられたのは朗報で、協会のこの措置は誠に当を得た良策と云いたい。

こうした動きに比して女子界の最近はやや精彩を欠いている。これは女子のハンドボールが七人制に統一されたため、絶対数に限りのあるコーチの不足が原因している。しかし七人制の普及は昨年あたりから急カーブを描いており女子界の充実も近い将来果されるだろう。だが女子の試合数（大会数）の増加はもう少し考えられてよいものがあり、日体大を始め女子大学チームはリーグ戦もなくその点、男子より数段不遇である。

軌道にのるか実業団球界

実業団ハンドボールが軌道にのりつつあると云うニュースも嬉しい。すでに全国で十チーム内外の実業団チームがあると聞いているが日本のハンドボール界のこれから伸びる道として実業団は無二の道であり、どうかかけ声ばかりに終らず、立派な成果をあげて欲しい。（黒尾武）

男子高校界に見るべきものが多い。今年も昨年の全日本高校でベスト8に残った津山商を中心に操山高、天城高がA級。一般男子は岡山球友クラブ。女子は倉敷勢と名門青陵高、それに井原高あたりが有力。一般もこれらのOGクラブが強い。

九州

九州のハンドボール界の中心は昨年あたりから、はっきりと福岡から熊本に移った感がある。それほど熊本県の最近のハンドボール界の充実は特筆すべきものがあり、特に女子は高校で熊本市高が夏の全日本（二連覇）秋の国体と完全優勝。一般でも熊本クラブが今春の全日本総合室内に優勝。愛知紡績（愛知）に夏の全日本総合の雪じょくを遂げているなど我々の女子ハンドボール界の王国になったと云っても過言ではない。今年の県内を展望すると男子高校で、は昨年話題を蒔いた熊本市商を中心に古豪済々黌、熊本市高が三強。女子は菊地農蚕高、熊本市高の争覇がみものだ。一般は男子が熊本教員クラブ、済々黌OB、熊商大など、国体が今年は地元（水俣市）で開催される関係もあり今年こそ天皇杯得点で一位と云う意欲はすさまじいばかりだ。福岡県は熊本勢打倒を目指して斗志を燃やしており、伝統に輝やく小倉工、博多工、香椎高、西南高の男子高校ビッグ4、女子高校界の古豪明善高などは全国的にも充分上位12ランクされる実力を誇っているし、一般も男子の小倉工クラブ、福岡クラブは伝統の球歴に恥じぬ陣容。かつての王者西日本日体OBクラブは噂を聞かない。女子の明善クラブも多門らしい強力な攻防陣で全国制覇を狙えるチーム力である。本土南端の鹿児島県は熊本の活況に刺激されて好チームが各部門に続々輩出しており、中でも一般の鹿児島クラブ（男・女とも）高校男子の鹿児島工、甲南高、高校女子の加治木高などは全国的な大会でもかなりやれそうだ。

昭和三十四年度主要大会成績総覧

★一般の部
★学生の部
★高校の部
★女子の部

一般の部

▽第十一回全日本総合選手権（8月13日～17日熊本県水俣市）

▽一回戦　芝浦ク22－4熊本高　明大17－16熊本商大　全明大20－7天草高ク　芝工大33－1四日市商　熊本市商12－9聖ポール倶　中大不戦勝大山町体協

▽二回戦　全日体大15－10芝浦ク　明大21－14天城高OB　全教大19－18小倉工OB　全明大15－12西日本日体OB　中大16－8旭桜ク　芝工大17－15桜丘会　豊陵会19－12山口クラブ　熊本市商13－10西南クラブ

▽一回戦（追加）　天城高OB12－11住友化学菊本　豊陵会15－11福岡クラブ　山口クラブ27－3水俣クラブ　全教大15－4済々黌OB　西南クラブ26－6鹿児島工　旭桜クラブ不戦勝福岡工クラブ　桜丘会32－5玉名豊高OB

▽準々決勝

全日体大　22（13－0、9－3）3　明大

豊陵会　22（10－7、12－8）15　全教大

全明大　19（9－6、10－4）10　熊本市立高

芝浦工大　15（7－6、8－3）9　中大

▽準決勝

全日体大　23（9－6、14－12）18　豊陵会

芝浦工大　24（11－8、13－8）16　全明大

▽三位決定戦

全明大　18（11－9、7－7）16　豊陵会

▽決勝戦

芝浦工大　18（10－5、8－10）15　全日体大

	【芝浦】	【日体】
GK	福本	北川
FB	尾藤	滝口
	田口	久保田
HB	村上	豊島
	黒沢	松田
	高井	東
FW	佐藤	竹野
	服部	大西
	山田	山野
	宮原藤	福山
	宮原俊	井口
ST	36	38
FT	20	25

交代＝（芝）FW塩川　GK鷹見　（日）FW山下　GK福田

▽第二回全日本教職員選手権（7月8、7日駒沢）

▽予選Aブロック　茨城18－16長野　京都27－19長野　茨城21－17京都

▽同Bブロック　奈良興東倶18－15静岡　静岡29－10大阪学大OB　興東35－19大阪

▽同Cブロック　東京22－13広島　東京22－11高知　広島15－12高知

▽同Dブロック　山口ク36－10栃木　山口38－15三重　栃木24－8三重

▽決勝トーナメント

東京教員団　18（6－7、12－9）16　山口ク

奈良興東倶　24（17－7、7－10）17　茨城教員団

▽三位決定戦

山口ク　18（10－8、8－5）13　茨城教員団

▽決勝

東京教員団　22（11－10、11－7）17　奈良興東倶

▽第十四回国民体育大会一般の部（10月25日～30日駒沢）

▽一回戦　函館サンダー21－8熊本教員団　桐生クラブ14－10住友化学菊本　山口クラブ17－14全宮城　福岡クラブ18－6全茨城

▽二回戦　函館サンダー9－7芝浦クラブ　京都クラブ23－13青森クラブ　清水商クラブ14－11岡山球友　全富山12－11桐生クラブ　大阪クラブ17－13山口クラブ　全神奈川21－6讃岐クラブ　神戸クラブ13－10上田クラブ　全茨城不戦勝桜丘会

▽準々決勝

函館サンダー倶　14（6－5、5－6、2－1、1－0）12　京都ク

清水商ク　11（9－3、2－5）8　全富山

大阪ク　13（7－5、6－4）9　全神奈川

福岡ク　6（2－4、2－0、2－1、0－0）5　神戸ク

▽準決勝

函館サンダー倶　17（9－5、8－4）9　清水商ク

大阪ク　21（8－5、5－8、3－1、5－1）15　福岡ク

▽三位決定戦

清水商ク　16（4－9、9－4、1－0、2－2）15　福岡ク

▽決勝戦

大阪ク　17（9－6、8－7）13　函館サンダー倶

	【大阪】	【函館】
GK	光島	北川
FB	望月	田中
	東	松田
HB	宮川	宮崎
	佐藤	三橋
	深江	泉
FW	丸岡	山本
	日向	正岡
	村田	山田
	村中	国分
	今西	皆川
ST	40	29
14MT	3	3

FW（荒川主審）

学生の部

▽第二回全日本学生選手権大会（34年7月1日～5日西宮）

▽一回戦　同大10－6中大　東北学院10－8神大　大阪府大9－7順天堂大　教大12－7名大　法大14－3大阪歯大　阪大13－12中京大　立大7－5甲南大　明大不戦勝山口大　関学16－5慶大

▽二回戦　芝工大16－10同大　早大12－1東北学院　京大14－10大阪府大　教大17－11立命大　関大14－5阪大　立大11－9法大　明大24－5大阪工　関学16－8日体大

▽準々決勝

芝浦工大　19（11－5、8－3）8　早大

京大　8（6－3、2－3）6　教育大

関大 16（10－2，6－3）5 立大

明大 15（10－5，5－6）11 関学

▽進決勝

芝浦工大 11（7－7，4－1）8 京大

明大 9（3－4，6－4）8 関大

▽三位決定戦

関大 13（5－5，8－3）8 京大

▽決勝戦

芝浦工大 18（10－5，8－6）11 明大

芝浦工大は昨年に引続き二連覇

【芝工大】交代＝塩川（FW）

GK 福本
FB 尾藤　田口
HB 村上　黒沢　高井
FW 佐藤　服部　山田　宮原藤　宮原俊
（主審 狩野）

【明大】交代＝藤本（FW）

板屋　加藤　佐藤　三谷　清水　溝淵　高田　正岡　浪越　浅野　漆畑

39	ST	39
42	FT	23
5	14MT	3

▽**第三回全日本学生王座決定戦**（34年11月29日国立競技場）

芝浦工大（関学）24（11－11，13－6）17 関学大（関西）

芝浦工大は第一回大会に次いで二度目の王座。

【関学大】

小河　湧水　山淵　藤原　阿部　富川　宮地　日向　市場　前　福井

GK　FB　HB（主審 岡村）FW

本藤　尾藤　村上善　村上厳　田口　高井　佐藤　服部　山田　宮原藤　宮原俊

【芝工大】交代＝鷹見（GK）

33	ST	35
27	FT	33
4	14MT	5

▽**第九回学生選抜東西対抗**（34年11月29日国立競技場）

東軍 18（11－7，7－9）16 西軍

対戦成績　東軍5勝4敗

【東軍】ST35 FT20 14MT1

GK 鈴木（早）　福田（日体）
FB ○井（中）　○森川（中京）
HB ○豊島（日体）　○清水（中）　○北沢（早）　菅田（東北）
FW ○吉田正（早）　○山下（日体）　○漆畑（明）　○井上（日体）　○阿部（中）　羽上田（中京）　後藤（東北）
（主審 勝）

【西軍】ST34 FT19 14MT1

GK ○本田（京）　中（同）
FB ○石崎（京）　○神前（同）
HB ○中島（同）　○中江（同）　○小野（京）　山田（関）
FW ○川野（京）　○今藤（同）　○森田（同）　○高村（関）　○内田（同）　林（同）　荘林（神）

○印はスターティングメイバー

▽**第三回東日本学生選手権**（11月　日仙台市）

芝浦工大（関東）21（10－4，11－1）5 東北学園（東北）

東北学院 18（10－2，8－2）4 名工大（東海）

芝浦工大 26（12－4，14－0）4 名工大

芝浦工大は第一回以来三連覇

▽**第七回関西学生トーナメント**（4月26～29西宮）

▽決勝

関学 18（6－12，12－5）17 関大

関学は第一回以来七連覇

▽**関東学生春季リーグ戦**

（一部）（5月2日～19日駒沢）

	明大	芝工大	日体大	早大	中大	教大	立大	慶大	（順位）
明	×	○	●	○	○	○	○	○	1
芝	●	×	○	○	○	○	○	○	1
日	○	●	×	○	●	○	○	○	3
早	●	●	●	×	○	○	○	○	4
中	●	●	○	●	×	○	○	○	4
教	●	●	●	●	●	×	○	○	6
立	●	●	●	●	●	●	×	○	7
慶	●	●	●	●	●	●	●	×	8

（明大・芝工大は同率首位，優勝預り。尚二部は法大が優勝。）

▽**関東学生秋季リーグ戦**

（一部）（10月18日～11月8日駒沢）

	芝工大	早大	日体大	中大	明大	教大	慶大	立大	（順位）
芝	×	○	○	○	○	○	○	○	1
早	●	×	●	○	○	○	○	○	2
日	●	○	×	●	○	○	○	○	2
中	●	●	○	×	○	○	○	○	2
明	●	●	●	●	×	○	○	●	5
教	●	●	●	●	●	×	○	○	5
慶	●	●	●	●	●	●	×	○	7
立	●	●	●	●	○	●	●	×	7

（一部芝浦工大六度目の優勝二部防衛大が優勝。）

▽**関西学生春季リーグ戦**

（一部）（5月3日～26日西宮）

	関学	同大	関大	京大	立命大	神大	（順位）
学	×	○	●	○	○	○	1
同	●	×	○	○	○	○	2
関	○	●	×	○	○	○	3
京	●	●	●	×	○	○	4
立	●	●	●	●	×	○	5
神	●	●	●	●	●	×	6

（上記三校同率の為決勝リーグで順位決定）

（一部関　学優勝　二部大府大優勝）

▽**関西学生秋季リーグ戦**

（一部）（10月18日～11月17日西宮）

	関学	同大	京大	関大	神大	立命大	（順位）
学	×	○	○	○	○	○	1
同	●	×	○	○	○	○	2
京	●	●	×	○	○	○	3
関	●	●	●	×	○	○	4
神	●	●	●	●	×	○	5
立	●	●	●	●	●	×	6

（一部関　学優勝　二部大府大優勝）

▽**第九回西日本大学大会**

（6月27・28日鹿児島市）

	熊本商大	山口大	鹿児島大	松山商大	（順位）
熊	×	○	○	○	1
山	●	×	○	○	2
鹿	●	●	×	○	3
松	●	●	●	×	4

（熊本商大の優勝は三回目。）

▽**第三回国立六大学リーグ戦**

（7月7日～9日大阪大）

	京大	阪大	神大	東大	東北大	名大	（順位）
京	×	○	○	○	○	○	1
阪	●	×	○	○	○	○	2
神	●	●	×	○	○	○	3
東	●	●	●	×	○	○	4
北	●	●	●	●	×	○	5
名	●	●	●	●	●	×	6

（京大は昨年に引続き二連覇。）

▽**一九五九年度主なる大学対抗定期戦**

▽第十二回（6月6日駒沢）

京大 8（4－2，4－2）6 慶大

（慶大9勝2敗1分）

▽第十二回（6月6日小石川）



昨年国内ハンドボール界で最も充実した試合が続いたのは高校男子の部門で全日本高校、国体と熱戦好試合が多かった。写真は国体優勝、全日本高校二位となった鎌倉学園GKの善戦ぶり

明大 20（10―8, 10―9）17 立命大
（明大10勝2敗）

▽第九回（6月7日京都洛星高）
同大 24（12―7, 12―4）11 立大
（同大5勝4敗）

▽第七回（6月7日東大）
京大 13（6―5, 7―2）7 東大
（京大6勝1敗）

▽第六回（6月13日小石川）
慶大 9（4―3, 5―5）8 甲南大
（慶大6勝）

▽第一回（6月14日小金井）
東京学芸大 13（5―5, 8―1）6 武蔵工大

▽第十四回（6月27日西宮）
関学 14（10―4, 4―8）12 早大

【関学】
GK 小河
FB 湧永 山淵
HB 藤原 安部 富川
FW 宮地 日向 市場 前 福井
（主審 村田）
【早大】
GK 鈴木
FB 山口 森岡
HB 渋谷 北沢 穴戸
FW 吉田正 長沢 恵谷 吉田哲 垣内

関学		早大
35	ST	31
41	FT	30
0	14MT	0

（関学11勝3敗）

△第七回（6月29日西宮）
中大 20（10―2, 10―2）4 大阪歯大
（中大6勝1敗）

△第七回（9月10日国立競技場）
早大 15（8―5, 7―5）10 慶大

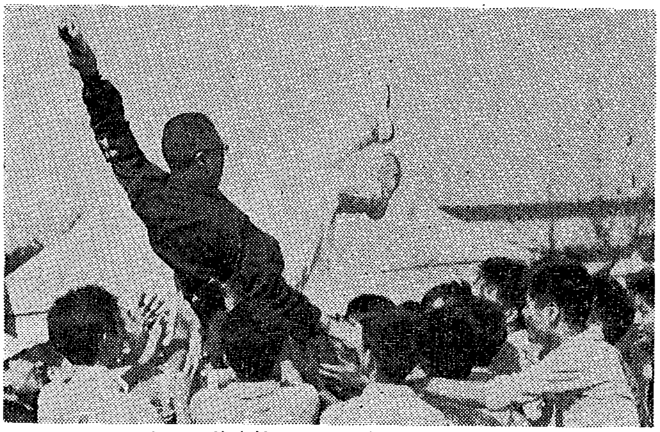
【早大】交代＝長沢（FW）
GK 鈴木
FB 山口 森岡
HB 五井 北沢 穴戸
FW 吉田正 塩坂 恵谷 吉田哲 垣内
（主審 荒川）
【慶大】
GK 大塚朝
FB 田中 木本
HB 鈴木 高久保 桜井
FW 斉藤 辻 曽根 小野田 芦川

早大		慶大
30	ST	28
35	FT	34
3	14MT	1

（慶大5勝2敗）

▽第十一回（11月12日立大）
法大 20（10―6, 10―5）11 立大
（法大6勝5敗）

▽第十三回（6月18日小石川）
明大 11（6―5, 5―5）10 慶大
（明大7勝6敗）



昨年の国体高校の部で優勝をとげ監督を胴上げして喜ぶ鎌倉学園高チーム

高校の部

▽第十回全日本高校選手権（8月1日〜5日仙台市）

▽男子一回戦勝者 鎌倉学園、仙台一高、津山商、那賀高、盈進商

▽男子二回戦勝者 鎌倉学園、石岡一高、小倉工、三国丘高、新居浜工、伏見高、塩山高、津山商、氷見高、神代高、北佐久農高、中京商、熊本商、静岡農小松実高、兵庫高

▽男子三回戦勝者 鎌倉学園、三国兵高、新居浜工、津山商、神代高、中京商熊本商、兵庫高

▽男子準々決勝
鎌倉学園 10（5―3, 5―4）7 三国丘高
新居浜工 6（3―1, 3―4）5 津山商
中京商 10（7―3, 3―1）4 八幡商
熊本商 9（4―3, 5―4）7 兵庫高

▽男子準決勝
鎌倉学園 12（6―4, 6―5）9 新居浜工
中京商 10（7―6, 3―3）9 熊本商

▽決勝戦
中京商 15（7―5, 8―8）13 鎌倉学園

【鎌倉】
GK 青木実
FB 佐藤 宮本
HB 押田 神田 小川
FW 杉山 中根 青木孝 小野 鈴木
【中京】
GK 山田
FB 稲垣 川島
HB 都築 川口 吉田
FW 福島 森田 近藤泰 金田 伊藤

▽第十四回国民体育大会高校男子の部（10月25日〜30日駒沢）

▽一回戦 鎌倉学園10―9盈進商 熊本市立高12―6日川高 新居浜工20―2函館工高

▽二回戦 神代高8―6仙台一高 鎌倉学園高5―2氷見高 熊本市立高9―7明石高 函館工不戦勝

中京商

▽準決勝
鎌倉学園 12（6―5, 6―6）11 神代高
熊本市立高 12（6―2, 6―6）8 新居浜工

▽三位決定戦
神代高（東京）10（3―3, 7―6）9 新居浜工（愛媛）

▽決勝戦
鎌倉学園 6（4―3, 2―2）5 熊本市高

【熊本】
GK 島崎
FB 細井 多久
HB 林 松田 福田
FW 東 緒市 沢田 甲斐 白垣
（主審 岡村）
【鎌倉】
GK 青木実
FB 仁藤 押田
HB 庵原 神田 小川
FW 杉山 中根 青木 小野 鈴木

熊本		鎌倉
19	ST	19
0	14MT	2

▽第十回全日本高校選手権女子の部（8月1日〜5日仙台市）

▽一回戦勝者 熊谷商、高崎女子高

▽二回戦勝者 寝屋川高、福島女子高、徳山高、涌谷高、栃木女子高、半田高、新居浜東高、静岡城北高、那賀高、彦根西高、函館東高、水海道二高、四日市高、京都女子高、平塚江南高、熊本市立高

▽三回戦勝者 寝屋川高、徳山高、半田高、静岡城北高、那賀高、水海道二高、京都女子高、熊本市立高

▽準々決勝
寝屋川高 4（2―1, 2―2）3 徳山高
半田高 5（3―2, 2―1）3 静岡城北
那賀高 6（5―2, 1―1）3 北海道二高
熊本市高 12（6―2, 6―1）3 京都女高

▽準決勝
寝屋川高 6（5―3, 1―2）5 半田高
熊本市高 6（1―1, 5―2）3 那賀高

▽決勝戦

熊本市高 10（3－2, 7－6）8 寝屋川高

【熊本】		【寝屋川】
早田	GK	牧野
清田 / 徳永 / 溝部	B	出橋 / 清水 / 中村
久蓮松 / 村上 / 西村	FW	宮崎 / 尾亀 / 梶野

▽第十四回国民体育大会高校女子の部（10月25～30日駒沢）

▽一回戦　尼崎高8－3水海道二高　涌谷高8－4新居浜東高　明善高14－3桜水商　有磯高不戦勝半田高　徳山高2－0静岡城北高　高崎市立高5－2高岡高　岡山井原高13－6函館東高　熊本市高3－2寝屋川高

▽二回戦　涌谷高3－3尼崎高（涌谷抽せん勝）福岡明善高5－4有磯高　徳山高5－3高崎市立高　熊本市高5－2井原高

▽準決勝

涌谷高（宮城） 11（4－4, 5－5, 0－0, 2－0）9 明善高（福岡）

熊本市高 7（5－1, 2－2）3 徳山高（山口）

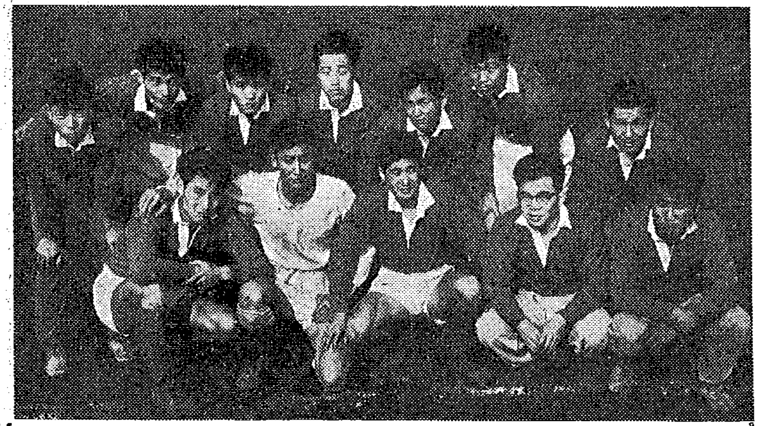
▽三位決定戦

徳山高 11（5－2, 6－1）3 明善高

▽決勝戦

熊本市高 7（4－0, 3－3）3 涌谷高

【熊本】		【涌谷】
早田	GK	尾形
清田 / 徳永 / 溝部	B	久直 / 木村 / 遠藤
久蓮松 / 村上 / 西村	FW	佐藤 / 伊藤 / 伊東
石川 / 篠原 / 西村 / 小野	交代（主審 松本）	中里 / 沼津 / 川村 / 入生田
36	ST	25
0	7MT	1



話題のチーム ①　大崎電気の巻

今月紹介する東京の「大崎電気」チームはおそらく殆んどの方がその名を知らないチームでしょう。それもそのハズ、まだ誕生して一ケ月少々。それでいて今年の全日本総合の黒馬に推してやぶさかではないと云ったら皆さんは二度ビックリなさることでしょう。実業団のハンドボールチームは「大崎電気」が始めてではなく住友化学菊本（愛媛）や三菱レーヨン（広島）新三菱重工（名古屋）などが既にあり、女子では愛知紡績（愛知）と云う強豪がおります。しかしおそらくこうした既成実業団のどれよりも「大崎電気」が強そうだと云うのはそのメンバーの〝顔〟によるのです。宮原、竹野、高井、村上今野……ハンドボールファンなら先刻御承知の芝浦工大、日体大のかつての精鋭がそのイレヴンの大半を占めているからです。この原稿を書いている時にも「大崎が日体大との練習試合に勝った」「東京大会で芝浦クラブを破って優勝した」と云うニュースが聞えて来ます。まっ赤なジャージーに黄色の背番号と云う派手な装いをしたこのイレヴンは今年の日本のハンドボール界の話題をさらう活躍をしそうです。（**写真は優勝した大崎電気**）

女子の部

▽第十一回全日本総合選手権（8月13日～17日熊本県水俣市）

▽一回戦　愛知紡19－3菊地農蚕高　寝屋川クラブ9－5南筑高　熊本市高14－1日女体短大　水海道二高ク12－0玉名高　熊本クラブ13－2梅花クラブ　八条クラブ8－3水俣高　清水水子高6－4尚絅高　日体大11－10福岡明善ク

▽準々決勝

愛知紡績 5（3－0, 2－2）2 寝屋川ク

熊本市高 6（4－4, 0－0, 0－1, 2－0）5 水海道二高ク

日体大 2（0－0, 2－0）0 清水女高

熊本ク 19（10－1, 9－0）1 八条ク

▽準決勝

愛知紡 11（9－1, 2－2）3 熊本市高

熊本ク 13（8－1, 5－2）3 日体大

▽三位決定戦

熊本市高 6（3－1, 3－2）3 日体大

▽決勝戦

愛知紡績 8（5－3, 3－4）7 熊本ク

【熊本】		【愛知】
境	GK	野崎
溝部 / 蒲原 / 井手	B	滝本 / 山崎 / 瀬川
村上 / 関 / 今池	FW	沢田 / 青木 / 磯部
山崎 / 内田	交代	里野 / 桑山 / 太田 / 金沢
23	ST	22
1	7MT	1

▽第十四回国民体育大会一般の部（10月25日～30日駒沢）

▽一回戦　日体大10－4函館フレップ倶　涌谷高OG5－4青陵高OG　明善クラブ10－4尼崎クラブ　全埼玉7－4今治西高OG

▽二回戦　寝屋川クラブ2－1日体大　涌谷高OG3－2富山高OG　明善クラブ3－3全茨城（明善ク抽せん勝）全埼玉不戦勝愛知紡績

▽準決勝

大阪寝屋川クラブ 5（2－0, 3－0）0 涌谷高OB（宮城）

明善クラブ（福岡） 8（5－2, 3－3）5 全埼玉

▽三位決定戦

全埼玉 4（1－0, 3－1）1 涌谷高OG

▽決勝戦

大阪寝屋川クラブ 8（6－0, 2－1）1 福岡明善クラブ

【明善】		【大阪】
大津	GK	大西
安徳 / 佐藤 / 宮崎	B	森口 / 竹内 / 梶原
平尾 / 持地 / 仲	FW	桑原 / 大西 / 西田
	交代（主審 入江）	菅井 / 高岡 / 橋本 / 東
23	ST	29
0	7MT	0

投書欄

最近のハンドボールに対する一般の関心は非常に高いものがあります。殊に、昨年のＩＯＣで、来るべきオリンピック東京大会にハンドボールが正式種目として採り上げられると云う報が伝わってから一段と活況が呈され、我々ハンドボールを競技するものとしても大変喜ばしいことだと思っています。ところが近時、オリンピック東京大会の種目削減の声が起き、その第一候補としてハンドボールがあがっていると云うニュースが耳に入るのはまことに驚きとも悲しみともつかぬ気持です。一体、こうしたニュースは本当なのでしょうか。そして、実際にそうしたことが行われる可能性があるのでしょうか。

ハンドボールがスポーツとして我国に根を下ろしてから二十余年をすぎ、ようやくそのレベルも国際的にはＢ級の上と評価されるまでに成長したと云われます。そうしたこれからと云う時に、我国でオリンピック種目としてハンドボールが行われることは、一般に対する理解を求めるためにも、また一般の関心を集中させるためにも、これ以上願ってもない方法はなく、万難を排して実現に向って関係者は努力すべきであると考えます。

戦後、日本ではいろいろなスポーツが盛んになりましたが、その多くは国際試合における勝利や活躍によって、始めて世人に認められたものであり、逆から云えばスポーツの一般的感心は国際試合の開催によって急激に芽生えると云うことが出来ましょう。事実、ハンドボールにしても、先年、西ドイツのオールスターズが来日して、全国各地で試合することによって都会、地方を問わず新しいファンが激増したと云われるではありませんか。私自身も東京での試合で二万のファンが集ったのにはいささか驚き、大げさに云えば我が目を疑ったものです。

もし、これがオリンピックであったなら日本のハンドボールが更に多大なファンと注目を集めるかは他言を要するまでもないことであります。それだけに、折角のチャンスを種目削減の犠牲として、不挙行になると云うことはハンドボールを愛するものにとっては骨首しがたいものがあるのです。

協会関係者はどのような（と云っても公明な）方法を採っても、東京のオリンピック種目としてハンドボールが行われるよう最善の努力をして欲しいと切望します。それによってどれだけ若いハンドボール選手の励みになるか知れませんし、ハンドボール界自体の発展の大礎石になると思います【東京・中村由起男】

> 諸兄姉の投稿をお待ちしています。ハンドボール界に対する建設的な意見を二千字以内でお寄せ下さい。〆切日は特に設けませんが、住所、氏名（筆名可）年令を明記して下さい。宛先は東京都千代田区神田駿河台、日本体育協会内日本ハンドボール協会編集部まで。

質問欄

問　一九三六年ベルリンオリンピックではハンドボールが正式種目として行われたそうですが、その時の成績をお教え下さいませんか。（川崎市木月、多田生）

答　ベルリンオリンピック大会のハンドボールは一九三六年（昭十一）八月六日からオリンピック主競技場を中心に六チーム（一〇五名）が参加して行われ次のような成績でした。

予選（ベスト4選考試合）

ドイツ	22―0	ハンガリー
オーストリア	18―3	ルーマニア
ハンガリー	7―2	アメリカ
スイス	8―6	ルーマニア
ドイツ	29―1	アメリカ
オーストリア	14―3	スイス

五、六位決定戦

ルーマニア	10	（4―0, 6―3）	3	アメリカ

決勝リーグ

ドイツ	19	（11―3, 8―3）	6	ハンガリー
オーストリア	11	（6―3, 5―3）	6	スイス
オーストリア	11	（5―2, 6―5）	7	ハンガリー
ドイツ	16	（9―3, 7―3）	6	スイス
スイス	10	（7―2, 3―3）	5	ハンガリー
ドイツ	10	（5―3, 5―3）	6	オーストリア

この結果ドイツ、オーストリア、スイス、ハンガリー、ルーマニア、アメリカの順でした。

問　昭和二十三年から九回を数えた全日本学生王座が昭和三十二年から改めて第一回となったのは何故ですか。（東京、一高校生）

答　昭和二十三年からの学生王座は関東、関西両学生リーグの秋の一位同志の試合でしたが競技の普及とともに全国各地に地方学連が生まれ名実ともに学生王座とするために、従来の〝王座戦〟を発展的解消して東日本学生代表と西日本学生代表の争覇と云うことに昭和三十二年から改正したものです。なお、この結果西日本代表だけは今まで通り関西学生リーグ秋の優勝校が自動的に代表に推されていますが、東日本代表は関東リーグ、東海学連、東北北海道学連のそれぞれ秋の優勝校が総当り戦を行なって代表を決めています。

問　日本ハンドボール協会の創立年月と初代会長は（富山　ＳＧ生）

答　創立は昭和十三年二月。初代会長は平沼亮三氏です

> 読者諸兄姉の質問を歓迎します。ハンドボールに関することなら技術問題、記録なんでも結構です。宛先は住所、氏名（匿名可）、年令明記の上、ハガキで東京都千代田区神田駿河台、日本ハンドボール協会内機関誌編集部質疑応答係まで。

今月の問題

採用か消滅か……

＝岐路に立つ東京五輪ハンドボール＝

絶大な関心寄すヨーロッパ諸国

今、全国のハンドボール関係者とファンが身辺にある最大の関心事は、オリンピック東京大会の正式種目としてハンドボールが採りあげられるかどうかと云うことであろう。

昨年のIOC総会で一九六四年のオリンピックが大東京で開かれることに決った時、ハンドボールは採用が正式に認められていたのだが、その後、オリンピック東京大会種目削減案が起き、オリンピックに於ける実績が比較的少ないハンドボールも削減種目の候補の一つに入っていると云うニュースは少からずハンドボール関係者にショックを与えたようである。

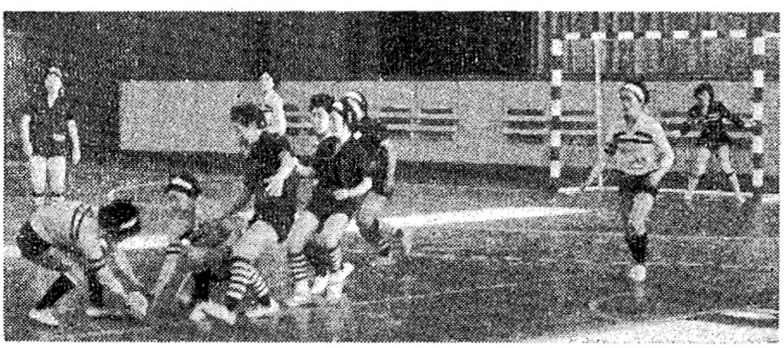
何故、東京大会で種目を減らさなければならないのか。オリンピックに於いてハンドボールはそれほど実績がないのだろうか

これについて少々筆を加えねばなるまい。東京大会で当初の案通り二十一種目のオリンピックに決められた全種目を行うことは、現状からの見通しで非常に困難な問題となって来ている。とも角そうした事情の中で二十一種目から十八種目に種目を少なくすることは経済的にも大いに救はれる面があり、今でも真けんに検討が加えられているのだが、いざ、減らすとなってどの種目をと云うことになると簡単に決められるものではないそこで、日本に於ける普及状態やら、過去のオリンピック大会での実績を考慮して……と云うことになったのだが、そうなるとハンドボールは弱い。

つまり、日本国内に於ける普及状態は及第点としても、過去のオリンピック大会では一九三六年ベルリン大会で行はれているにすぎず、その後は、ヘルシンキ大会の開会式当日エキジビション・ゲームとして行はれた例が一回記録されているだけである。ハンドボールを東京大会で行おうと云うにはこの前歴だけではあまりにも弱く、その上、アジアでハンドボールを実施している国が少ないのも痛い。しかし、世界各国、とりわけヨーロッパ諸国の東京大会でのハンドボール開催に対する関心は大きく、種目削減案が出ていると云うニュースもいち早くこれら諸国に伝わっており、フランス、チエコなどからは、事態を心配して問合せの電報がJOCに届けられているほどで、その関心のなみなみならぬものを感じさせている。オリンピックで競技を行うか、行はないかでは、そのスポーツの世界的評価を左右するものだけに、こうした動きが起るのも当然であろう。

もち論、国内関係者の開催実現への努力は続いており、式場会長、高島理事長以下、協会の総力を結集して関係方面へ働きかけを行っている。

現在の段階で、中立的な立場に立ってこの問題を眺めてみると、その可能性は六分程度と云えるのではないだろうか。正式な決定は、来月IOC総会で行はれるのだが、大げさに云えば日本ハンドボール界の命運を賭けたとも云えるこの問題の実現に全国に散るハンドボール関係者とハンドボールに関心を寄せる人々の熱意ある支援が望ましい。それと、ルーマニア戦における日本チームの試合ぶりも微妙な作用をすることになろう。



ニュース スクラップ 新聞記事から

この欄は中央紙、地方紙を問はずスポーツジャーナリズムによって採り上げられたハンドボール関係の新聞記事を集めたいと思います。地方読者の御協力を待望しています。今月は準備不足でコレと云ったものがありませんので特例として〃新刊〃の御紹介を一つ……。

※　※　※

【全国高体連ハンドボール部十周年記念号】 ハンドボールに関する書籍はこれまでにも幾つか出されているが、どれも真面目なそして有益な技術書としては得難い内容のものであるが、この三月、全国高体連ハンドボール部が、その創立十周年を記念して刊行したこの「記念号」ほど感激的な内容のものはない。一見同人雑誌風のこの百二十三頁の〃本〃は、ごく当り前な記念号の風体なのだが、都道府県の歩みと云うテーマの下に寄せられた地方関係者の原稿は、これまでのハンドボール界の発展の辛苦と、現状の苦難を描いた印象的な原稿が揃い、技術書ばかりのハンドボール関係の文献の中に将来、特異な存在となりそうだ。それに編集内容も悪くない。ただ、奥付に（非売品）とあり入手がいかにも難しそうなのが惜しい。

協会だより

担当宮崎顕一郎

★昭和三十五年度の協会登録について今号はお知らせ致しましょう。

今年度、協会主催の大会（例えば全日本総合選手権、全日本室内綜合等と）に出場するためには昭和三十五年五月末日までに（但し五月三十一日の済印のあるものは認める）登録を完了しなければなりません。この登録完了によって、始めて昭和三十五年度登録チームとなり『未登録チームは如何なる大会にも出場は認めない』（協会全国理事会議事報告より抜すい）規定になっていますから全国各チームは充分注意されて手続きをして欲しいと思います。

個人の登録は今年も例年通り「三重登録」まで認められます。つまり同一名儀が三つの異ったチームに登録記載されて差支えないわけですが、その場合には登録用紙（協会規定のもので本部協会、又は各都道府県協会にあります）のA欄B欄と云う欄に必要事項を書込むことが条件となっています。なお大会等では、例え「三重登録」が認められていても、一チームからのみ出場が許可されることは云うまでもありません。すなはち、A、B、Cの三チームに登録され、その三チームが全部同一大会に出場していたとしても、当人はA、B、C何れかの一チームにのみ選手として出場が許可されると云う意味です。不明の点は本部協会又は都道府県協会にお問合せ下さい。

都道府県協会一覧表

北海道	函館市時任町35　函館中部高校内
青森	青森市横山町105　県立青森盲ろう学校内斎藤浩気付（TEL6458）
秋田	秋田市土手長町　秋田県教育庁保険体育課内（TEL秋田5521）
岩手	盛岡市上田　盛岡第一高校内（TEL2265）
宮城	仙台市川内　東北大学川内分校体育研空室内（TEL3.9620）
福島	郡山市神明町140　市立郡山第二中学校内
群馬	富岡市七日市1500　富岡高校内（TEL富岡53）
栃木	足利市本城１の1629　足利高校内（TEL足利4573）
茨城	水戸市渡里町　茨城大学体育研究室気付（TEL水戸4171）
埼玉	埼玉県浦和市下木崎皇山16　浦和西高校内
千葉	千葉市小仲台町824　千葉大学文理学部内
東京	東京都杉並区荻窪２の100　山岡二郎気付
神奈川	横浜市南区三春台４　関東学院高校内（TEL3,305）
静岡	富士市松本17　富士高校内（TEL富士871）
山梨	甲府市塩部町　甲府第一高校内清水正　気付
愛知	名古屋市中村区鳥森　松蔭高校内
岐阜	岐阜市早田　岐阜北高校内
三重	三重県四日市市浜田　四日市工業高校内
長野	上田市新参町　上田市教育委員会事務局社会保険課内（TEL上田1200）
富山	富山市総曲輪　木村運動具店内
石川	金沢市宮守堀通り　石川県スポーツ会館内（TEL3.2579）
滋賀	彦根市西今町542　尾本和男気付（TEL彦根(呼)1063）
京都	京都市北区小松原南町10　洛星高校内（TEL 44 2334）
大阪	豊中市上野５の80　豊中高校内（TEL豊中3118）
奈良	奈良市高樋町498　森田正英気付
和歌山	和歌山市湊　県立和歌山商業高校内山田進気付
兵庫	神戸市兵庫区川中町43　兵庫工業高校内
岡山	倉敷市天城　天城高校内（TEL天城16）
広島	呉市下山手町23　日進建設工業上田喜代治気付（TEL23534）
山口	下関市南町下　関教育委員会保健体育課内（TEL下関63）
香川	高松市桜町830　高松第一高校内
高知	高知市鴨部668　高知西高校内（TEL25721）
愛媛	松山市持田町　松山東高校内（TEL松山64）
福岡	福岡市香椎町　香椎高校内（TEL香椎９）
熊本	熊本市黒髪町坪井　済々黌高校内
鹿児島	鹿児島市天保山町18　鹿児島商業高校内（TEL4.73）

編集後記

▽……ハンドボール界に専門誌が一つもないのは以前から不思議でした。中学の体育として、高校、大学のスポーツとしてこれだけ親しまれ、ましてやオリンピック東京大会の正式種目にもあげられているのに不思議でした。

▽……でもそれはこれまでのハンドボール界が競技の普及と技術の向上に追われてそこまできっと手が廻らなかったからだろうと思います。

▽……ともかく、こんど式場会長の絶大なる御好意と日本スポーツ新聞社の宮沢社長以下同社各位の熱意ある御支援で雑誌「ハンドボール」が生れました。出来るだけ多くの人が読んで下さるようお願いします。

▽……第一号の編集は協会の宮崎顕一郎、梅原幸二、中沢重夫、安藤純光の四氏と報道陣から鷲尾武治（共同通信運動部）小川励行（デイリースポーツ東京本社）杉山茂（NHK運動部）が当りました

▽……五月十二日に編集会議を開いて、〆切を三日後の十五日に決めると云う超スピードでありながら寸暇をさいて寄稿して下さった式場会長を始め協会関係の執筆者各位にはお礼の言葉もありません。

▽……もう一つすごく嬉しかったのはハンドボール・ライターの草分けとも云うべき共同通信社の鮎沢周二さんが特に創刊を祝って御多忙の中、寄稿して下さったことです。

▽……次号からは技術関係の原稿や日本ハンドボール史のようなものを加え、海外ハンドボール界の動静も充実して載せる予定です。

▽……ハンドボールが日本に生れて二十余年。二十余年間、書きたいことが溜っていたとでも云うのでしょうか。あれもこれもとプランが山積して取捨選択に困るほどです。皆さんも原稿やプランをどしどし寄せて下さい（S・S）

日本ハンドボール協会公認
昭和35年度 公式試合球

ハンドボール 第一巻第一号 昭和三十五年六月一日印刷 昭和三十五年六月五日発行 編集兼発行人 宮沢宏之 監修日本ハンドボール協会 発行所 日本スポーツ新聞社 東京都千代田区神田駿河台三ノ二 電話(29)代表一一四一番 振替口座東京九二六八二番

定価五十円 〒八円